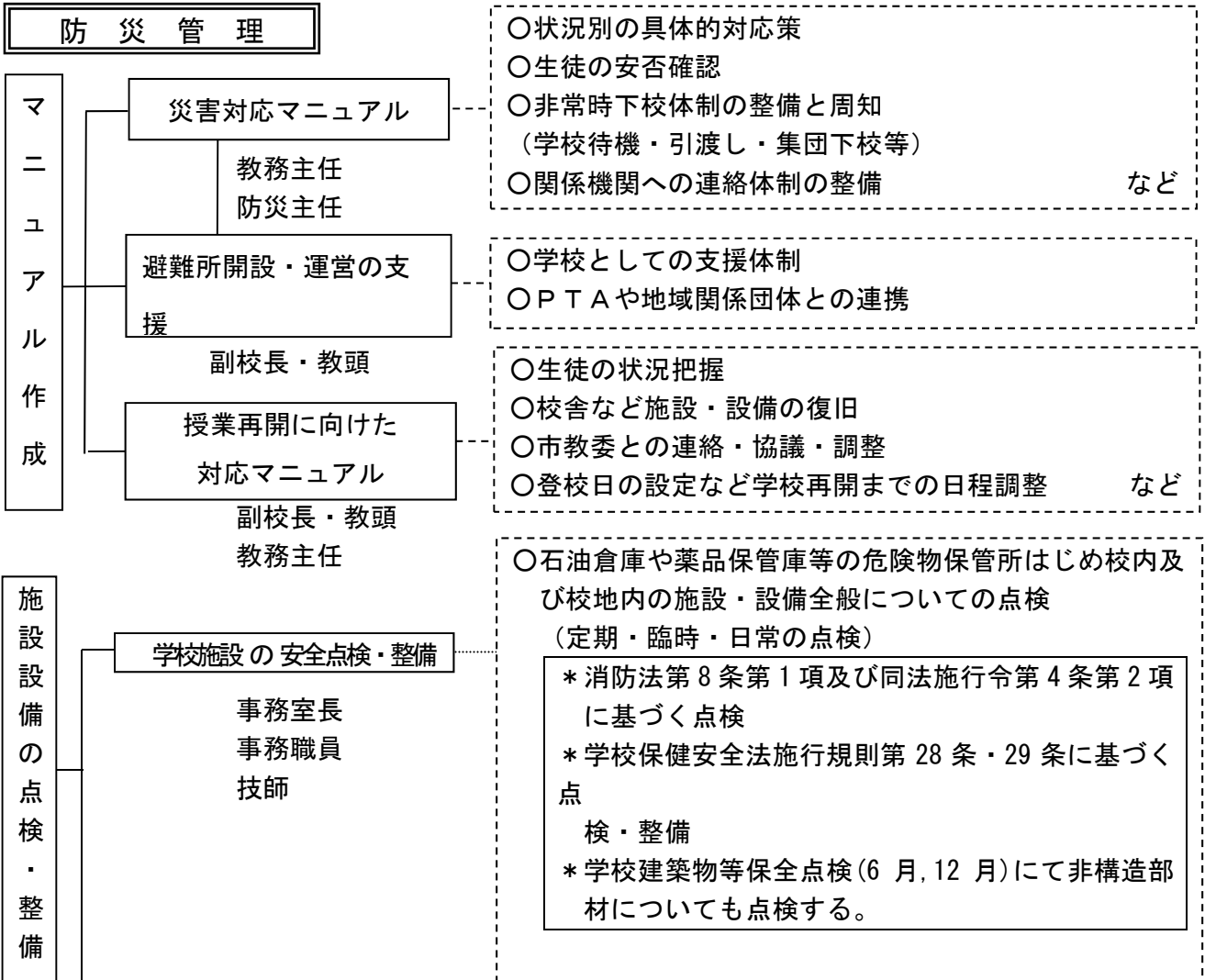
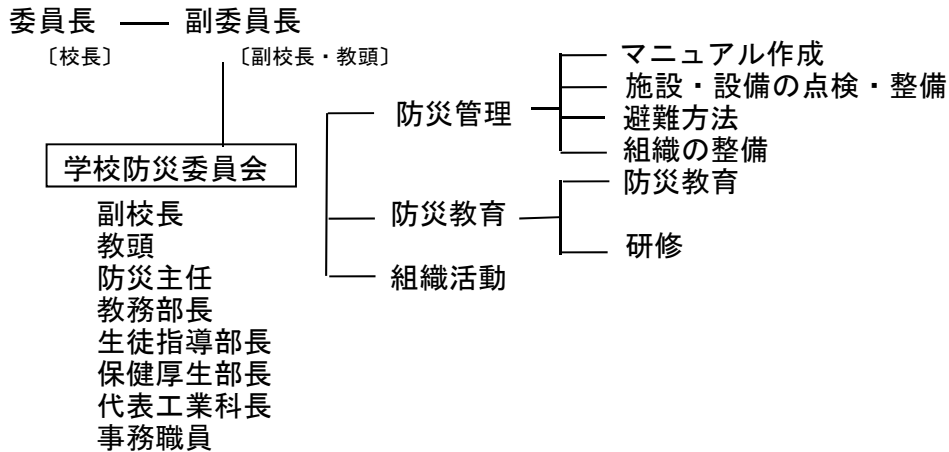
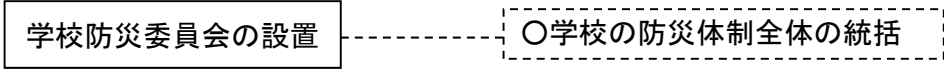


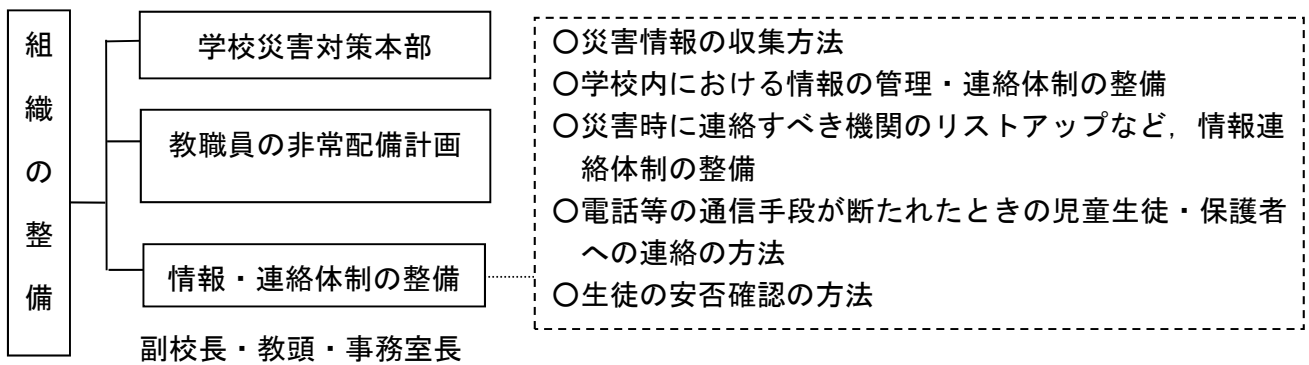
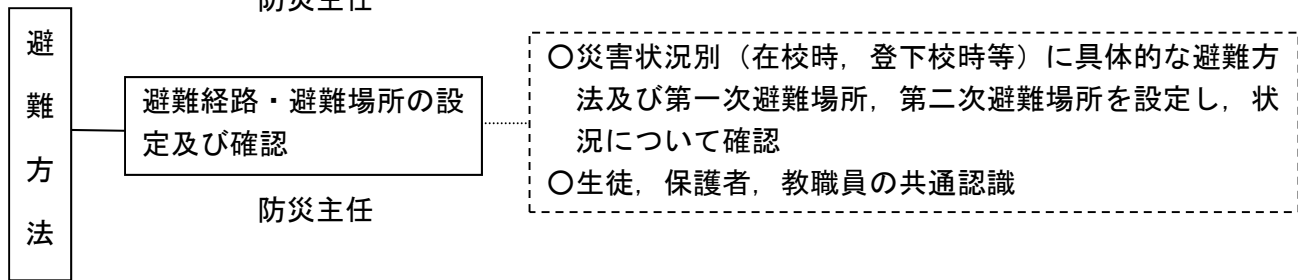
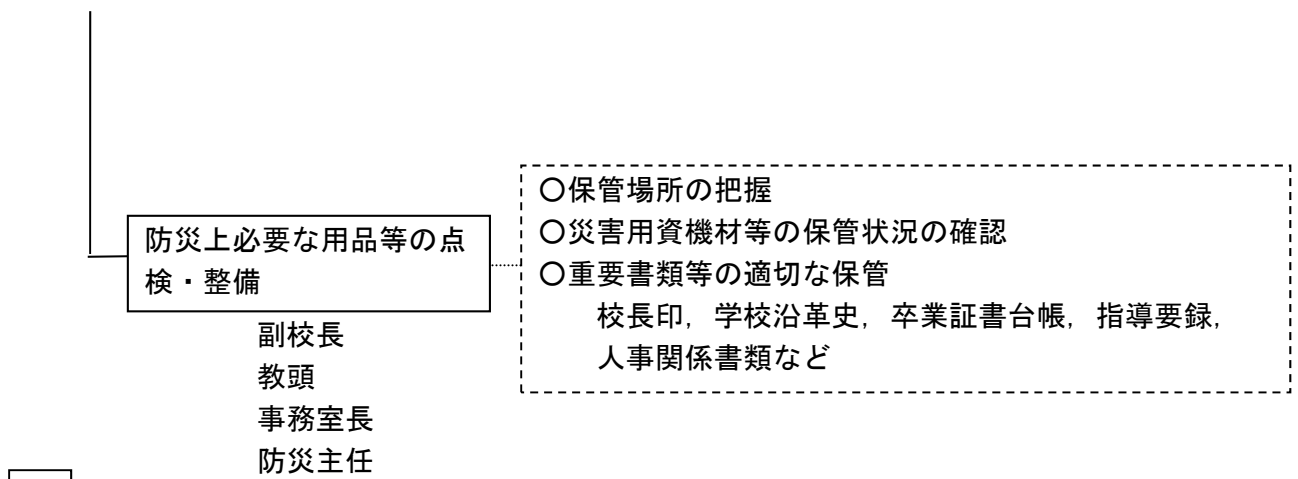
# 令和4年度 災害等対応マニュアル

1	学校防災体制の整備	1
2	地震対応マニュアル	3
	（1）状況別の地震対応マニュアル	3
	① 教職員及び児童生徒の在校時	3
	② 学校外活動中	5
	③ 登下校時	6
	④ 教職員在校時外	7
3	風水害対応の留意点	8
4	弾道ミサイル発射・落下時の対応マニュアル	9
	（1）児童・生徒在校時	9
	（2）登校前，児童生徒が在宅時および登下校中	11
5	原子力災害対応マニュアル	13
	（1）原子力災害について	13
	（2）学校での対応について	13
6	資料（非常時の対応・組織・配備）	15
	（1）登下校における非常時の対応	15
	（2）非常時における在校時下校体制	16
	（3）緊急連絡用（引き渡し）カード	17
	（4）災害対策本部の組織	18
	（5）教職員の非常配備	19
	（6）情報連絡体制	22
	（7）教育委員会（学校・事務局）防災対応フロー	24
	（8）非常配備時の学校被害状況報告 FAX 送信票 様式	25
	（9）防災用 IP 無線から教育指導課への連絡方法	26
7	避難所開設・運営の支援マニュアル	27
	（1）目的	27
	（2）日常における指定避難所に必要な事項の確認	27
	（3）指定避難所開設・運営の協力・支援	34
	（4）授業再開に向けた対応マニュアル	37
8	その他	38
9	令和4年度非常配備要員	40

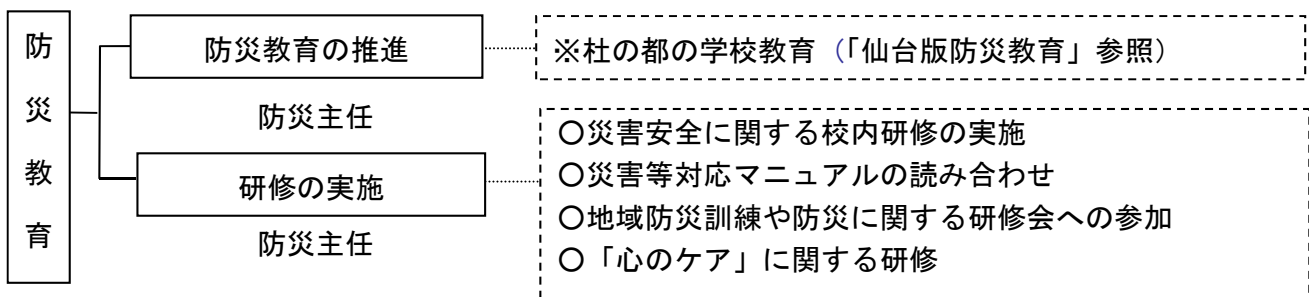
# 1 学校防災体制の整備

日常の安全教育及び安全管理を推進し、また、災害等が発生した場合においても速やかに児童生徒等の安全確保を図るため、次の事項について定めておくものとする。

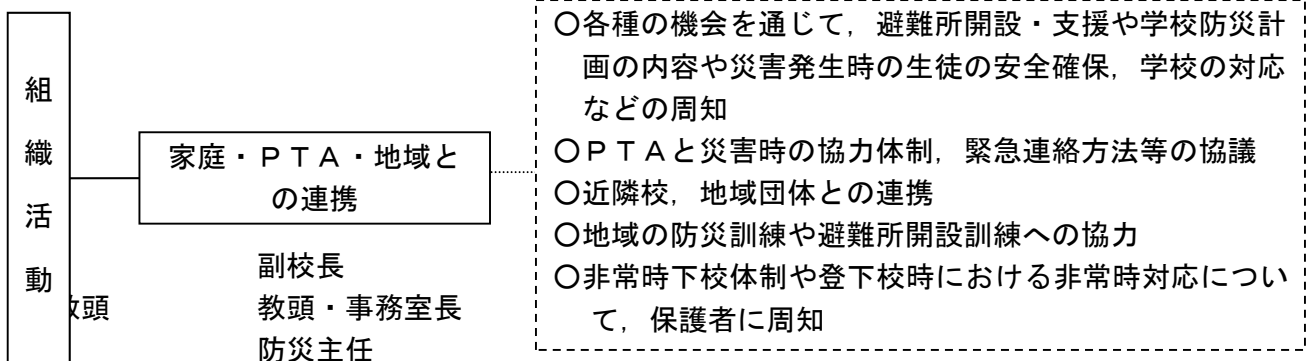




**防災教育**



**組織活動**



# 2 地震対応マニュアル

## (1) 状況別の地震対応マニュアル

### ① 教職員及び生徒の在校時

## 地震発生

基本的対応

安全確保

- 的確な安全確保を指示する。(頭部を保護し、物が落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所で身を寄せるなど)
- 特に特別支援学級や配慮を要する児童生徒等の安全確保には教職員が連携して当たる。
- 火災など二次災害の防止に努める。
- 負傷者の有無の確認を行い、手当の必要な場合は応急手当を行う。

避難の指示

- 避難経路の安全確認を行う。
- 全校に避難指示を行う。停電時はメガホン等で行う。
- 一次避難場所は原則として校庭だが、液状化や流動化による地割れ等が生じている場合や暴風雨の場合、火災など二次災害で校舎等が使用できない場合には、より安全な避難場所に誘導する。(安全確認を行ったうえで使用可能であれば体育館等)
- ※地震発生から津波到達までの時間の目安(45分)

避難の誘導

- 的確な行動を指示する。(頭部の保護、押さない、走らない、しゃべらないなど)
- 配慮が必要な児童生徒等や負傷者等を介助して避難する。
- 児童生徒名簿を携帯する。

安否報告の収集

- 人員の確認を行う。
- 負傷者の確認と応急手当を行う。
- 児童生徒等の不安を軽減し安全確保に当たる。
- ラジオ、テレビ、インターネット等から最新の情報収集を行うとともに二次避難の必要の有無を判断する。

災害対策本部設置

- 学校災害対策本部(P18)を設置し、以下の対応を行う。
  - ◇市内いずれかの地域で震度5強以上のときは、非常時下校体制とする。
    - ・事前の申し合わせに従い、学校待機・引渡し・集団下校のいずれかとする。
  - ◇児童生徒・教職員や施設・設備等の被害状況を確認し、C4th(使用できない場合は所定のFAX送信票:P25)で教育指導課宛に報告する。停電等でFAX送信ができない場合は防災用IP無線を利用して報告する。(P26)必要に応じて支援要請を行う。
  - ◇状況に応じて、通学路等の被害状況を把握する。
  - ◇引き続き災害情報の収集に努める。
  - ◇災害の状況、今後の対応等について保護者に知らせる。
    - ・電話、一斉メール配信、学校ホームページ等で連絡する。
    - ・通信が途絶された場合は、あらかじめ決めておいた方法で連絡する。
  - ◇欠席児童生徒等の安否を確認する。
  - ◇避難所が開設される場合には、避難所開設・運営の支援マニュアルに基づく活動を行う。(P27)

被災状況別の対応

ア 授業中（基本的な安全確保の形態）

- ・ 教員による安全確保の的確な指示  
（頭部を保護し、物が落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所に身を寄せる）
- ・ 火気使用中であれば消火する。（させる。）
- ・ 避難経路の確認、避難の指示は職員室で待機中の教職員が行う。
- ・ 揺れが収まったら、教職員の指示に従い、より安全な避難場所に避難する。
- ・ 児童生徒等の人員等状況確認や周囲の安全確認する。
- ・ 余震や二次災害に備え、児童生徒等を落ち着かせる。
- ・ 負傷者の応急手当をする。

場 所	教 職 員 の 対 応
普通教室	・ 机の下にもぐらせ、机の脚を両手でしっかり持つように指示する。
特別教室	・ 実験・実習中であれば、危険回避の指示をする。 ・ 火気使用中であれば消火、または消火の指示をする。
体育館	・ 物が落ちてこない、倒れてこない、移動してこない中央等に集合させ、体を低くするように指示をする。（建物の構造や体育用具の位置によっては、柱や壁に身を寄せる方が良い場合もある。落下物に注意する。）
校庭	・ 建物から離れ、校庭の中央に集合させ、体を低くするよう指示をする。
プール	・ すみやかにプールの縁に移動させ、縁をつかむよう指示をする。 ・ 揺れが収まれば、すばやくプールから出るように指示をする。 ・ 避難準備（サンダル・靴を履き、衣服やバスタオルで身を守る）をする。

イ 教員と児童生徒等が離れている場合（始業前、休み時間、放課後等）

場 所	児童生徒等の行動	教職員の対応
階段、廊下、トイレ等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 揺れている間は、頭部を保護し、物が落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所を見つけ、身を寄せて待機する。</li> <li>・ 落下物や倒壊物に気をつける。</li> <li>・ 揺れが収まったら、教職員の指示に従い、より安全な避難場所に避難する。</li> <li>・ 周囲の安全を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全校指示（揺れが収まるまで、物が落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所を見つけて身を寄せるように）をする。</li> <li>・ 教職員は分散して児童生徒等の安全確保、指示誘導をする。</li> <li>・ 校舎外にいる児童生徒等の人員確認、負傷者の応急手当をする。</li> </ul>
校庭、中庭、学習園等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建物、ブロック塀、窓ガラス等の近くから離れる。</li> <li>・ 揺れが収まるまで、頭部を保護し広い場所の中央で待機する。</li> </ul>	

## ② 学校外活動中

### (1) 現地で地震が発生した場合

#### 事前の計画

- 学校外活動を行う際の事前確認を以下の点に留意して行う。
  - ・見学施設、宿泊施設等の施設管理者との打ち合わせにより、災害時の対応について確認する。(避難経路、避難場所等)
  - ・現地の救急医療機関、避難場所、公的機関(市役所・町村役場、教育委員会、病院等)の住所、電話番号等を把握する。
- 事前指導を以下の点に留意して行う。
  - ・緊急時の避難方法・場所、連絡方法を確認する。
  - ・グループ行動中の緊急時の対応方法を決めておく。

## 地震発生

#### 安全確保

- 的確な避難行動を指示する。
  - ・物が落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所に避難させる。
  - ・ビル街では落下物やガラス等の飛散から身を守らせる。
  - ・電車、バス等に乗車中は、係員の指示により行動させる。
  - ・山間部で活動しているときには、地すべりが起きそうな崖、落石が起こりそうな場所から素早く離れさせる。
  - ・児童生徒等の不安軽減を図る。

#### 近くの避難場所へ避難

- 避難場所、救護施設がない場合、地元の人や機関等から情報を入手し、的確に対応する。(安全な場所への速やかな避難)
- 海岸近くで活動しているときは、高台やビルの屋上等に避難する。  
特に、強い揺れや長い時間ゆっくりとした揺れを感じた時は津波注意報などの発表を待たずにすばやく避難する。
- 施設管理者等の指示により行動する。

#### 安否確認

- 人員を確認する。グループ行動中であれば、予め決めておいた連絡方法で安否確認を行う。
- 通信が途絶された場合は、予め決めておいた避難場所等を巡回確認する。

#### 事後の対応措置

- 学校へ状況の報告を行う。
- 学校から教育指導課へ報告する。
- 学校から保護者へ連絡する。
- 必要な場合は、現地公的機関へ救援を要請する。

### (2) 修学旅行中などに仙台で地震が発生した場合

## 地震発生

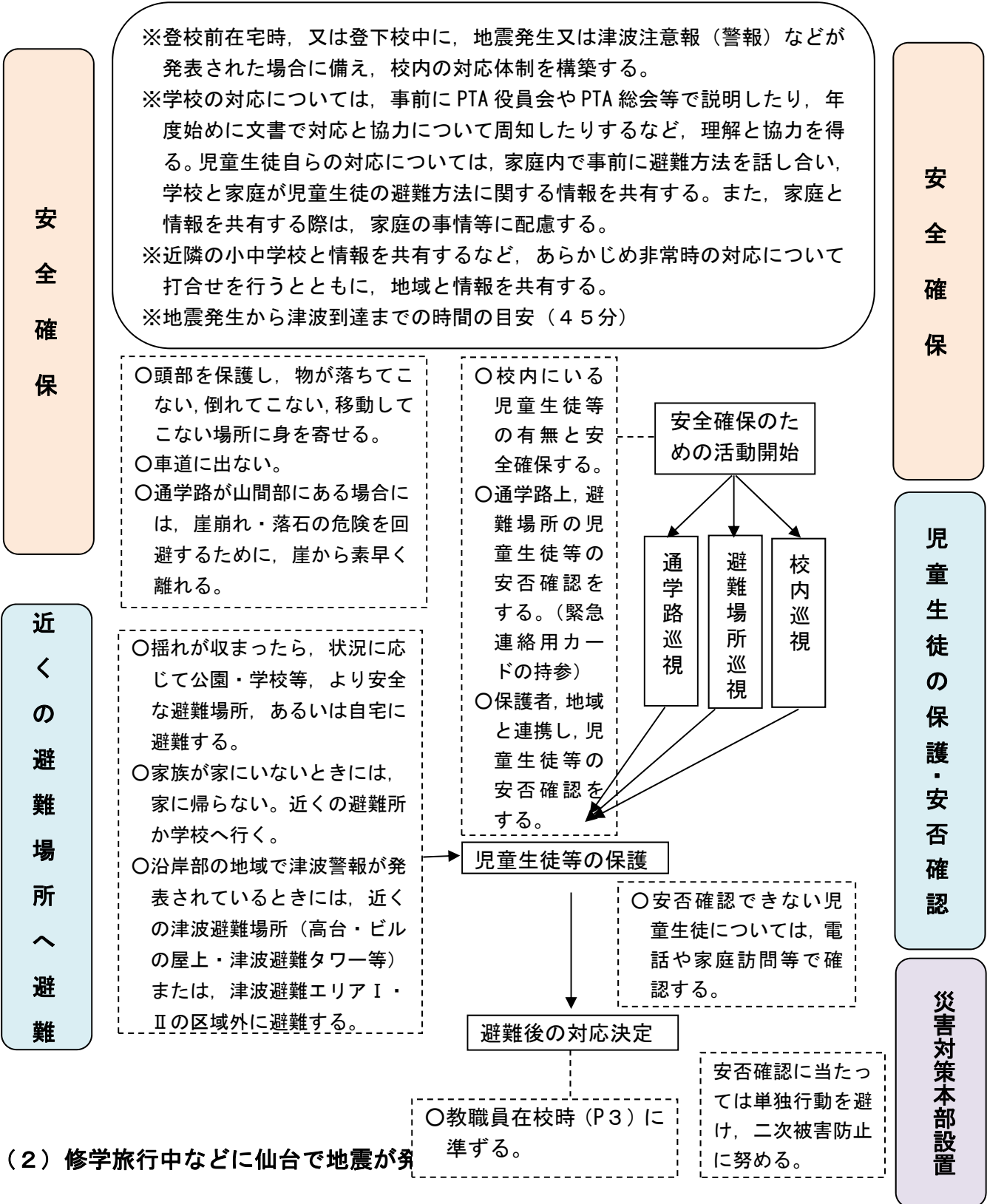
#### 事後の対応措置

- 地震の規模、被害状況等の情報を収集する。
- 現地公的機関や関係機関(旅行業者等)と対応を協議する。
- 可能な方法で学校へ連絡し、学校の状況等を確認する。
- 児童生徒の不安軽減を図る。(状況説明、今後の対応等)
- 学校から旅行の予定変更等について教育指導課へ連絡する。
- 学校から保護者へ予め決めておいた方法で連絡する。

③ 登下校時

◇ 状況に応じた対応（児童生徒等の安全確保のための学校・保護者・地域との連携）ができるように事前の共通理解を図る。

児童生徒等の行動	<b>地震発生</b>	教職員の対応
----------	-------------	--------





④ 教職員在校時外

地震発生

教職員の参集

- 教職員の非常配備体制と緊急連絡網を事前に整備しておく。
- 該当教職員は非常配備計画に則り参集する。(P19)

<p><b>【警戒配備】</b></p> <p>・校長もしくは教頭, 警戒配備要員 (P19-20 に準じる)</p>	<p>(1) 宮城県に津波注意報が発表されたとき。(津波参集対象校のみ。⇒本校は対象外) (P20)</p>
<p><b>【非常1号配備】</b></p> <p>・校長もしくは教頭, 非常配備要員 (P19-20 に準じる)</p>	<p>(1) 市内で震度5弱の地震が発生したとき。 (2) 宮城県に津波警報が発表されたとき。(津波参集対象校のみ。⇒本校は対象外)</p>
<p><b>【非常2号配備】</b></p> <p>・校長, 教頭, 非常配備要員 (P19-20 に準じる)</p>	<p>(1) 市内で震度5強の地震が発生したとき。 (2) 宮城県に大津波警報が発表されたとき。(津波参集対象校のみ。⇒本校は対象外)</p>
<p><b>【非常3号配備】</b></p> <p>・全職員</p>	<p>(1) 市内で震度6弱以上の地震が発生したとき。</p>

- 配備が発令された場合には、該当教職員は家族等の安全を確保した後、自らの安全に留意し、直ちに学校に参集する。

被害状況確認

- ラジオ、テレビ、インターネット等で常に最新の情報収集を行う。
- 施設・設備等の被害状況を確認する。
- 教育指導課に C4th (使用できないときは所定の FAX 送信票 : P25) で報告する。停電等で FAX 送信ができない場合は防災用 I P 無線を利用して報告する。(P26)

本部設置 災害対策

- 児童生徒・教職員や施設・設備等に被害があった場合、及び避難所が開設される場合は、原則として校長室または職員室に学校災害対策本部を設置し、学校としての組織的な災害対応に当たる。(P18)

事後の措置対応

- 電話、一斉メール配信、学校ホームページ等の通信手段により安否確認をする。
- 通信手段が途絶されている場合は、学校と保護者が事前に定めておいた連絡方法(家庭訪問、決められた場所への掲示等)で安否確認を行う。
- 自らの安全確保に十分留意しながら、通学路及び地域の被害状況、危険箇所等を確認する。
- 事後の対応について、電話、一斉メール配信、学校ホームページ等の通信手段により保護者に連絡する。
- 通信手段が途絶されている場合は、学校と保護者が事前に定めておいた連絡方法(決められた場所へ掲示等)で連絡する。

◇ 避難所(体育館等)の鍵について  
管理職、事務室、防災主任等が状況に応じて解錠を行う。

配備解除については、校長用緊急連絡メールシステムで確認する。



# 3

# 風水害対応の留意点

風水害は地震とは異なり気象情報に注意を払うことにより、ある程度事前の対応が可能である。天候の崩れが予想されるときは、①気象台のホームページ等から積極的に情報収集を行う、②必要に応じて教育委員会へ確認を行う、③収集した情報を基に校内で話し合いを行う、④近隣学校との協議を行うなどして校内の対応体制（基本的な対応は、地震に準じて行う）を構築する。

## (1) 児童生徒の安全確保

＜児童生徒へは授業等で、日常から以下のような災害発生時の対応について指導をする。＞

- ① 急な大雨の際は、すぐに川などの水辺から離れる。地下室や地下街には進入しない。土砂災害警戒情報が発表されたら、本市が発表する避難情報（高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保）に注意し、いつでも行動できるよう心構える。危険を感じたら自主的に避難することも重要である。
- ② 雷鳴が聞こえたら、安全な建物の中へ避難する。木や電柱から4m以上離れる。近くに避難する場所がない場合は、姿勢を低くする。
- ③ 竜巻の際は、頑丈な建物に避難する（車庫や物置、プレハブには避難しない）。屋内では、窓、カーテンを閉め、窓から離れる。頑丈な机の下に入り、両腕で頭と首を守る。
- ④ 仙台防災ハザードマップや本市ホームページ「せんだいくらしのマップ」等で、河川氾濫や土砂災害、防災重点ため池の危険のある場所をあらかじめ確認しておき、大雨の際などは、危険な区域外や2階以上の建物やマンションの上層階に直ちに避難する。

＜学校は、災害発生時に以下のような点について配慮する。＞

- ⑤ 校長の判断もしくは教育委員会の指示により、始業時刻や終業時刻の繰り下げや繰り上げを行う。
- ⑥ 校長の判断もしくは教育委員会の指示により、臨時休業にする。
- ⑦ 学校行事を予定している場合は、児童生徒の安全確保を第一に考え、適切に対応する。

## (2) 教職員の参集

<b>【警戒配備】</b> ・校長もしくは教頭、警戒配備要員（P19-20に準じる）	・仙台市東部に土砂災害警戒情報が発表されたとき。 参集対象校のみ⇒本校は、初動で開設しない避難所となっている学校なので対象外。（P20、資料2）
<b>【非常1号配備】</b> ・校長もしくは教頭、非常配備要員（P19-20に準じる）	・市内に気象特別警報（暴風特別警報、暴風雪特別警報、大雨特別警報及び大雪特別警報）、高潮特別警報又は波浪特別警報が発表されたとき ・上記特別警報が発表されていない場合にあつて、大雨、洪水、暴風、大雪等により、市内に災害が発生し、かつ、拡大するおそれがあるとき
<b>【非常2号配備】</b> ・校長、教頭、非常配備要員（P19-20に準じる）	・大雨、洪水、暴風、大雪等により、災害が本市の区域に広範囲で発生し、更に拡大するおそれがあるとき
<b>【非常3号配備】</b> ・全職員	・市内の全域に大規模な災害が発生したとき、又は全域に拡大することが予想される時

○配備が発令された場合には、該当教職員は家族等の安全を確保した後、自らの安全に留意し、直ちに学校に参集する

## (3) 避難所の開設準備

河川及び防災重点ため池の氾濫による避難情報や土砂災害警戒情報等が発表され、区災害対策本部から避難所開設準備の連絡があった場合は、「避難所開設・運営の支援マニュアル」に基づき対応する。（P27）なお、避難所の開設は基本的に避難所担当課職員及び教職員、地域団体が事前に定めたルールに基づいて行う。

**本校においては、地域団体等の意向により、大雨時に初動で開設を行わないこととしている。**

# 4

## 弾道ミサイル発射・落下時の対応マニュアル

### (1) 児童・生徒在校時

基本的対応

## Jアラート等による緊急情報発表

#### 避難の指示 安全確保

- 速やかな避難行動を指示する。(職員室からの緊急放送・教職員の声掛け)
- 火気使用中であれば消火させる。
- 的確な安全確保を指示する。(校舎等に避難する。窓から離れ、机の下に潜るか、廊下や床に伏せて頭部を守る。安全が確認されるまで校内で待機する。など)
- 特別支援学級等や配慮を要する児童生徒等の安全確保には教職員が連携して当たる。
- 児童生徒名簿を携帯する。

#### 情報収集 安否確認

- 児童生徒等の人員等状況確認や周囲の安全確認を行う。
- 児童生徒等の不安を軽減し安全確保に当たる。
- テレビ、ラジオ、インターネット等から最新の情報収集を行う。

#### 事後対応

- 領土・領海内に落下した場合は、市教委の指示に従い、非常時下校体制とする。
  - ・事前の申し合わせに従い、学校待機・引渡し・集団下校のいずれかとする。
- 事後の対応について保護者に知らせる。
  - ・電話、一斉メール配信、学校ホームページ等で連絡する。
  - ・通信が途絶された場合は、あらかじめ決めておいた方法で連絡する。
- 欠席児童生徒等の安否を確認する。
- 学校へ避難してくる者(市民等)がいる場合には、校内の安全な場所に避難させるなどの保護活動を行う。

状況別の対応

#### ア 児童生徒が校舎内(体育館含む)にいる場合(基本的な安全確保の形態)

場 所	教 職 員 の 対 応 (児童生徒への指示)
普通教室 特別教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窓、カーテンを閉めさせる。</li> <li>・机を教室の中央に寄せさせる。</li> <li>・机の下にもぐらせ、近くに頭を保護できる物があればそれを頭に当て、なければ手を当てて後頭部を保護する体勢を取らせる。</li> <li>・膝と肘を床に付けさせる。危険な方向(窓等)に尻を向けさせる。</li> <li>・火気使用中であれば消火する。</li> <li>・実験中であれば、危険回避の指示をする。</li> </ul>
廊下等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の教室または近くの教室等で安全確保するよう指示をする。</li> </ul>

体育館	<p>※ 体育館はコンクリートで覆われた建築物ではない場合も多く、また、窓も多いため、時間を要さないのであれば、校舎に避難させることも十分考えられる。この場合、留意点は「普通教室・特別教室等の対応」に同じ。</p> <p>※ 体育館へ避難させる場合は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館の中央に避難させる。</li> <li>・窓や出入り口などからできる限り離れ、できるだけ姿勢を低くさせる。近くに頭を保護できる物があればそれを頭に当て、なければ手を当てて後頭部を保護する体勢を取らせる。</li> <li>・体勢は膝と肘を床に付けさせる。危険な方向（窓等）に尻を向けさせる。</li> </ul>
-----	--

## イ 児童生徒が校舎外にいる場合（始業前、授業中、休み時間、放課後等）

場 所	教 職 員 の 対 応（児童生徒への指示）
校庭、中庭、 学習園等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・速やかな避難行動を指示する。（職員室からの緊急放送・教職員の声掛け）</li> <li>・教職員は分散して児童生徒等の安全確保、指示誘導。担任外の教員を1階に配備する。</li> <li>・多人数で階段を駆け上がることは二次的な危険を伴うので、校舎1階の教室や廊下に避難させる。</li> <li>・窓や出入り口など開口部からできる限り離れ、できるだけ姿勢を低くさせる。近くに保護できる物があればそれを当て、なければ手を当てて後頭部を保護する体勢を取らせる。</li> <li>・安全を確認したら教員の指示で、教室に戻す。</li> </ul>
プール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すみやかにプールから出るよう指示する。</li> <li>・校舎に避難させる。（無理な場合は更衣室やトイレへの避難も考えられる）</li> <li>・できるだけ姿勢を低くする。衣服やバスタオル、ビート板等を頭に当て、なければ手を当てて後頭部を保護する体勢を取らせる。</li> <li>・安全を確認したら教員の指示で、教室に戻す。</li> </ul>

## ウ ミサイルが近くに着弾した場合

- ◇ ミサイルが近くに着弾した場合、屋外にいる場合は口と鼻をハンカチで覆いながら、現場から直ちに離れ密閉性の高い屋内の部屋または風上に避難する。  
屋内にいる場合は、換気扇を止め、窓を閉め、目張りをして室内を密閉する。
- ◇ テレビやラジオ、インターネット等を通し情報収集に努めるとともに行政からの指示があればそれに従って、落ち着いて行動する。

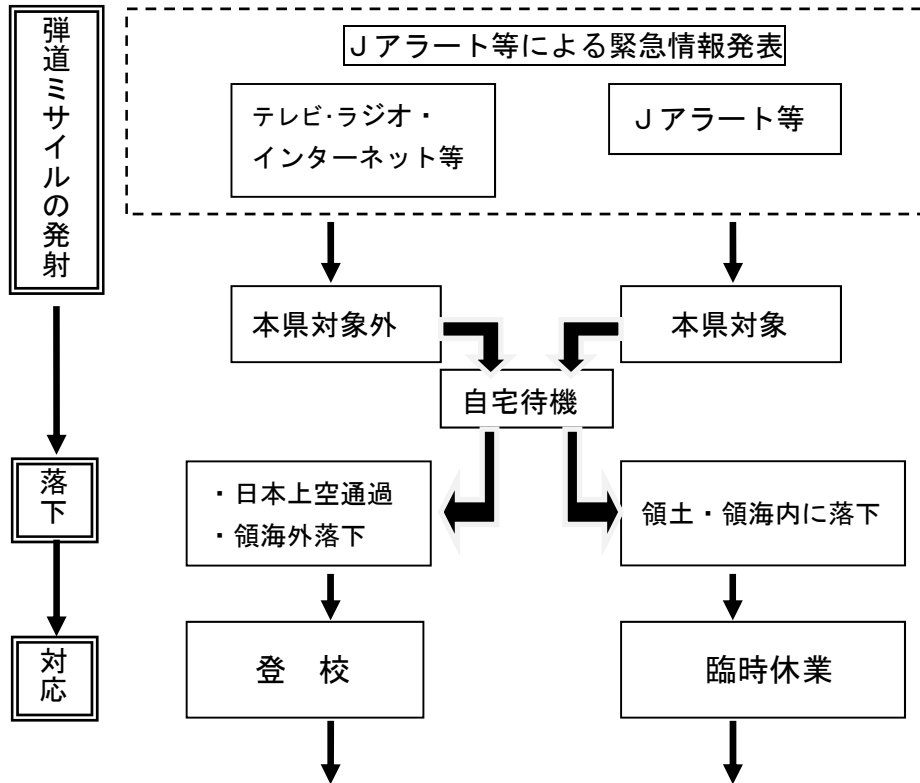
※具体的な避難行動については、「国民保護ポータルサイト」の動画等を参考にする。

URL <http://www.kokuminhogo.go.jp/kokuminaction/index.html>

## (2) 登校前，児童生徒が在宅時および登下校中

◇ 状況に応じた対応（児童生徒等の安全確保のための学校・保護者・地域との連携）ができるように事前にPTA 役員会やPTA 総会等で説明し理解と協力を得る。（P6）

### ア 登校前，児童・生徒が在宅時の場合の対応



※この場合，市教委から各学校への連絡は特に行わない。

※「日本上空通過」とは，他に追尾しているミサイルやミサイルから分離した落下物が我が国の領土・領海に落下する可能性がないことが確認された後に発せられる。

※「領海外落下」とは，ミサイル発射情報を発した後，結果的に本邦の領海外に落下した場合を指す。

※発生時刻によっては保護者等へ「通常登校」「始業時刻を遅らせ登校」等の連絡をする。

※「臨時休業解除」の判断については，ミサイルの発射や着弾の時間帯，被害の発生状況，国としての状況等によって市教委が行い，各学校への通知やマスコミへの連絡を行う。

※解除の場合，保護者等へ「通常登校」「始業時刻を遅らせ登校」等の連絡をする。

## イ 児童・生徒が登下校中の場合

- ◇ 登下校中に、緊急情報が発表された場合に備え、校内の対応体制を構築する。
- ◇ 児童生徒には安全確保のための避難行動について指導を行う。
- ◇ 保護者や地域の理解と協力が得られるよう、事前にPTA役員会やPTA総会等で説明し理解と協力を得る。
- ◇ 近隣の小中学校や地域と対応についての情報共有をする。

児童生徒等の行動

教職員の対応

### Jアラート等による緊急情報発表

安全確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>○近くにある建物や地下に避難し窓から離れる。</li> <li>○近くに建物がない場合は物陰等に身を隠すか地面に伏せて頭部を守る。</li> <li>○車は燃料のガソリンなどに引火する恐れがあるため、車から離れたところに避難する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内に児童生徒がいる場合、緊急情報を放送し、避難行動を呼び掛ける。</li> <li>○校舎内で避難行動を取らせる。</li> <li>○校内にいる児童生徒等の安全確保。</li> </ul>	安全確保
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報収集に努める。(公共施設・店・近くの大人など)</li> <li>○得られた情報に従って、行動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○テレビやラジオ、インターネット等で最新の情報収集を行う。</li> <li>○行政(市教委)からの指示があればそれに従って、行動する。</li> </ul>	情報収集
情報収集後の行動	<p>&lt;登校時&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校のすぐ近くまで登校している場合は、学校へ避難する。</li> <li>○自宅を出たばかりの場合は、すぐ帰宅する。</li> </ul> <p>&lt;下校時&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校のすぐ近くにいる場合は、学校へ避難する。</li> <li>○自宅に近い場合は、すぐ帰宅する。</li> <li>○自宅に誰もいないときには、家に帰らず、学校へ避難する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○通学路等の児童生徒の安否確認をする。(緊急連絡用カードの持参)。</li> <li>○保護者に、在宅児童生徒の安否確認をする。</li> </ul>	安否確認
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○安否確認できない児童生徒については、電話や家庭訪問等で確認する。</li> </ul>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">児童生徒等の保護</div>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○領土・領海内に落下した場合は、市教委の指示に従い、臨時休業、非常時下校体制(事前の申し合わせに従い、学校待機・引渡し・集団下校のいずれか)とする。</li> <li>○事後の対応について保護者に知らせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・電話、一斉メール配信、学校ホームページ等で連絡する。</li> </ul> </li> </ul>	事後の対応措置

## ウ ミサイルが近くに着弾した場合

- ◇ (1) 児童生徒が在校時「ウ」(P10)に準ずる。

# 5

## 原子力災害対応マニュアル

### (1) 原子力災害について

仙台市は、女川原発から30km圏外（原子力災害対策重点区域外）であるが、過去の事故事例から放射性物質を含むプルーム（煙流）が本市に接近する可能性も考えられる。このことから、原子力災害が起きた際の対応について理解しておく必要がある。

#### ○ 市からの発令及び避難行動

原子力災害が発生した場合、仙台市から、屋内退避・一時移転をそれぞれ「準備」⇒「指示」の2段階で発令される。

市からの情報	市民の避難行動
屋内退避の「準備」を発令	できるだけ外出を控える。
屋内退避の「指示」を発令	すみやかに屋内に入り、ドアや窓を閉め、換気扇を止め、ガムテープで窓の内側から目張りするなど、できるだけ外の空気が入らないようにする。
一時移転の「準備」を発令	情報を入手する。物資の準備など移転の準備をする。
一時移転の「指示」を発令	指示に従い1週間程度内に一時移転する。

【仙台防災ハザードマップより】

### (2) 学校での対応について（学校活動中）

#### 原子力災害発生



緊急速報メール等による緊急情報発表  
「屋内退避の準備」発令

#### 避難行動

○教室等なるべく気密性の高い所へ避難誘導を行う。（緊急放送・教職員の声掛け等）

原子力災害は、大地震・大津波等による二次災害で発生する場合も想定されるので、同時に津波や建物の倒壊等も考えられる。校舎への避難の方が危険と判断する場合は、できるだけ安全な施設や場所へ避難することも想定しておく

⇒校舎倒壊等の恐れがない場合は、校舎内に戻す。

⇒校舎倒壊等の恐れがある場合は、できるだけ安全な施設や場所へ避難する。

○特別支援学級や配慮を要する児童生徒等の安全確保には教職員が連携して当たる。

○児童生徒の避難状況及び周囲の安全の確認をする。

○児童生徒の不安軽減に努める。

※ 在宅時および登下校中に災害が発生した場合は、**6**資料(1)等を参考にして指導しておく。

#### 屋内退避の準備



屋内退避の準備

保護者への引き渡し・安否確認

- 電話、一斉メール配信、学校ホームページ等で保護者へ引き渡しの連絡をする。
    - ・通信が途絶された場合は、あらかじめ決めておいた方法で連絡する。
  - 帰宅後の対応について保護者に知らせる。
    - ・帰宅をしたらできるだけ外出を控えること。
    - ・屋内退避の解除が出されるまで臨時休業となるので、自宅で屋内退避を続けること。
    - ・テレビ、ラジオ、インターネット等から最新の情報収集を行う。
  - 欠席児童生徒等の安否を確認する。
- ※児童生徒が在宅及び登下校中の時に災害が発生した場合も、電話等で児童生徒の安否を確認する。

情報収集

- テレビ、ラジオ、インターネット等から最新の情報収集を行う。

屋内退避の「指示」への備え

- 避難所となる教室等に、ガムテープ等による窓の目張りや換気扇の停止などによる建物の気密性を確保する。

屋内退避の指示

- 屋内退避の「指示」が発令された時点でまだ保護者への引き渡しがされていない児童・生徒がいる場合は、学校等にて屋内退避を実施する。  
⇒臨時休業、屋内退避を継続する。

屋内退避の解除

- 保護者への引き渡しがされていない児童・生徒がいる場合は、保護者への引き渡しを行う。
  - 「臨時休業の解除」となった場合、保護者等へ「通常登校」や「始業時刻を遅らせ登校」等の連絡をする。
- ※「臨時休業の解除」の判断については、市との協議の下、市教委が行い、各学校への通知やマスコミへの連絡を行う。



## 6 資料（非常時の対応・組織・配備）

### （１）登下校時における非常時の対応

#### ① 登下校中における非常時の児童生徒自身による避難について

登校前在宅時，又は登下校中に，地震発生又は津波注意報（警報）などが発表された場合に備え，校内の対応体制を構築する。

特に，登下校中における非常時の児童生徒の避難については，児童生徒自身の判断に拠ることとなるため，例えば「学校のすぐ近くまで登校している場合は，学校へ避難する。」「自宅を出たばかりの場合は，すぐ帰宅する。」など，家庭内で事前に避難方法を話し合い，検討しておくことが求められる。このことについて，あらかじめPTA役員会やPTA総会等で保護者に依頼するとともに，学校と家庭が児童生徒の避難方法に関する情報を共有しておく。なお，対応について家庭と情報を共有する際は，家庭の事情等に配慮する。

#### ＜避難方法例＞

- 登校時
- ・学校のすぐ近くまで登校している場合は，学校へ避難する。
  - ・自宅を出たばかりの場合は，すぐ帰宅する。
  - ・土砂災害警戒エリア，防災重点ため池浸水想定エリア，津波避難エリアⅠⅡ内を除く地域の避難場所（公園等）へ避難する。
  - ・津波避難エリアⅠⅡ内に自宅や通学路がある場合は，近くの津波避難タワーなどに避難するなど。
- 下校時
- ・学校のすぐ近くにいる場合は，学校へ避難する。
  - ・自宅に近い場合は，すぐ帰宅する。
  - ・自宅に誰もいないときは，学校や地域の避難所へ避難する。
  - ・土砂災害警戒エリア，防災重点ため池浸水想定エリア，津波避難エリアⅠⅡ内を除く地域の避難場所（公園等）へ避難する。
  - ・津波避難エリアⅠⅡ内に自宅や通学路がある場合は，近くの津波避難タワーなどに避難するなど。

#### ② 校内の対応体制を構築する際の留意点

近隣の小中学校は，同一の対応を取ることが望ましい。あらかじめ非常時の対応について，隣接する学校は互いに打合せを行うとともに，非常時も連絡を取り合うようにする。また，対応について地域と情報を共有し，協力を得られるようにする。

##### ア 登校前在宅時の対応

登校前在宅時に地震等の発生や特別警報等の発表があった場合は，校長の判断もしくは教育委員会の指示により対応を決定し，決定した内容を速やかに保護者に連絡する。

- ・校長の判断もしくは教育委員会の指示により，始業時間の繰り下げを行う。
- ・校長の判断もしくは教育委員会の指示により，臨時休業にする。
- ・決定した対応を保護者へ連絡する。（電話，一斉メール配信，学校ホームページ等で）
- ・通学路の安全確認を行う。
- ・児童生徒の安否確認及び安全確保を行う。

##### イ 登校中の対応

- ・登校中の児童生徒の安否確認及び安全確保を行う。

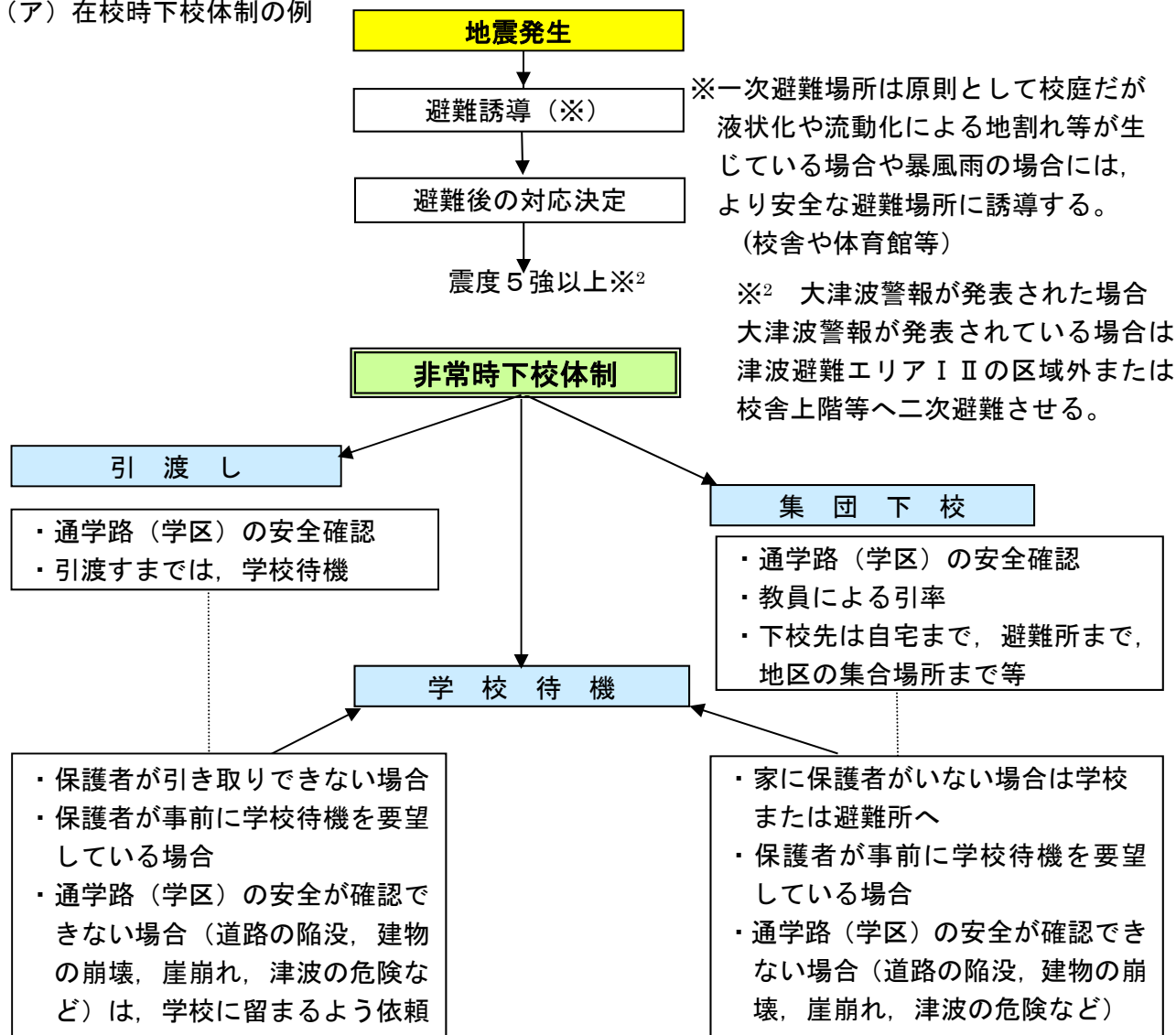
##### ウ 下校中の対応

- ・下校中の児童の安否確認及び安全確保を行う。

## (2) 非常時における在校時下校体制

- ・市内いずれかの地域で震度5強以上の地震が観測されたときには、全校で学校待機・引渡し・集団下校など通常とは異なる方法で下校させる。
- ・震度5弱以下の場合には、各学校の計画による。
- ・(可能であれば) 決定した対応を保護者へ連絡する。  
(電話, 一斉メール配信, 学校ホームページ等で)

### (ア) 在校時下校体制の例



### (イ) 事前の保護者との確認

各学校の非常時下校体制について

- ・引渡し方法・場所, 集団下校の方法などについて
- ・引渡し, 集団下校, 学校待機等の保護者の要望
- ・引渡しカードの作成

### (ウ) 家庭内での確認事項

- ・通学経路について(集団下校時の経路)
- ・引渡しの場所
- ・避難所や家族の集合場所
- ・非常時伝言ダイヤル等による連絡方法 など

### (3) 緊急連絡用(引き渡し)カード

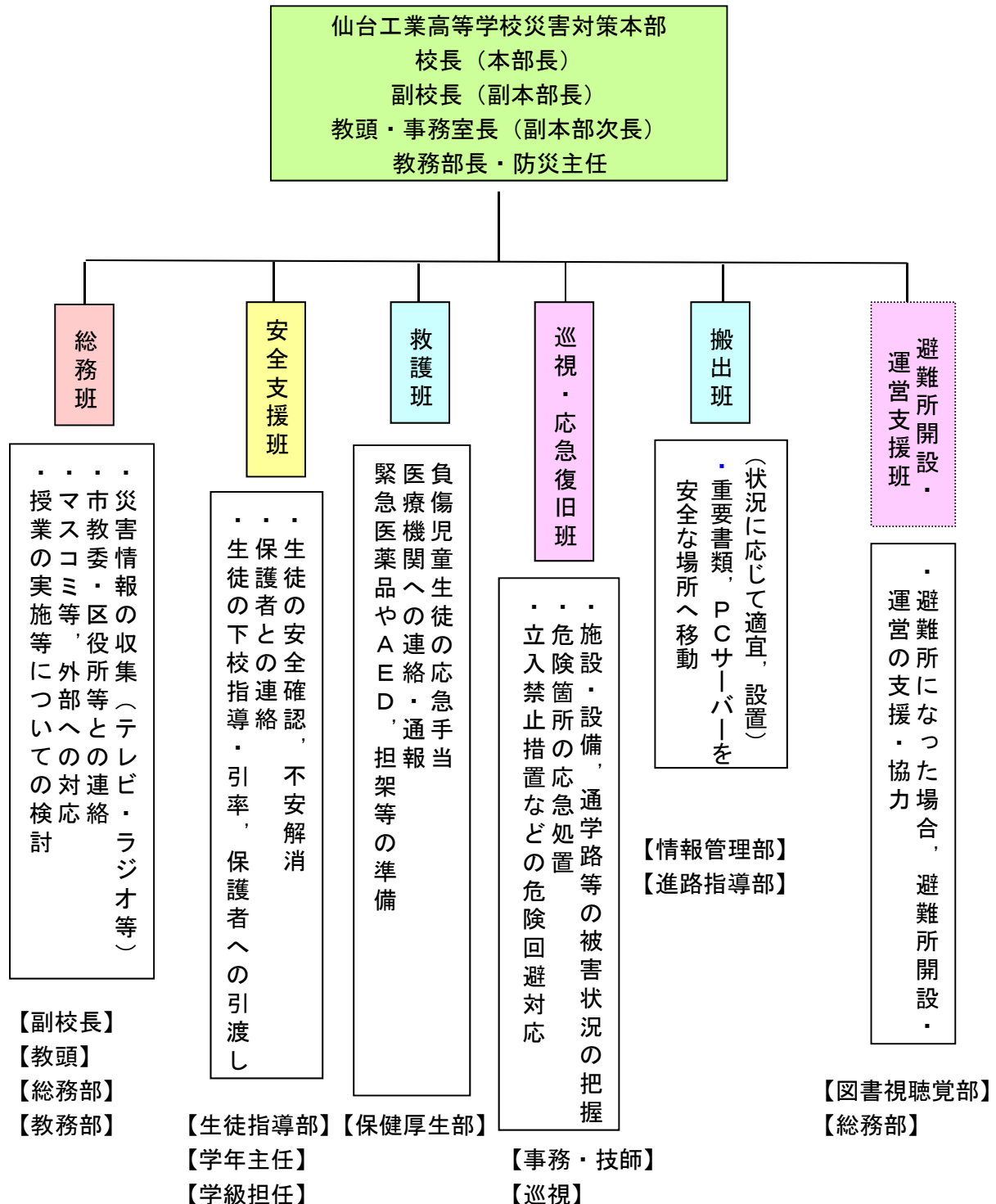
仙台市立仙台工業高等学校

緊急連絡用(引き渡し)カード				
1年	科	組	番	生徒氏名
2年	科	組	番	保護者氏名
3年	科	組	番	
住所	〒			
通学方法				
緊急連絡先	自宅 TEL ( )		自宅以外の連絡先(名称・TEL)	
	携帯 TEL ( )			
本校在学の兄弟等	年 科 組 名前		年 科 組 名前	
<b>緊急時の引受人</b> (学校に迎えに来る人。保護者以外の人も含む)				
	引受人氏名	電話番号	本人との関係	登校に要する時間
1				
2				
3				
<b>※の欄は、学校で引き渡し時に記入</b>				
担当教職員	※			
引き渡し日時	※ 平成 年 月 日 ( ) 時 分			
引渡し場所	※ 校庭 体育館 教室 その他 ( )			
引渡後の連絡先	氏名	※	TEL 番号	※
備考				

(注) 裏面に自宅付近図を記入

## (4) 災害対策本部の組織

児童生徒・教職員や施設・設備等に被害があった場合、及び区災害対策本部から避難所開設要請があった場合、原則として校長室または職員室に学校災害対策本部を設置し、学校としての組織的な対応に当たる。



(5) 教職員の非常配備

令和4年4月

## 仙台市立仙台工業学校教職員非常配備計画

※仙台市防災関係規定、「非常配備等に関する要領」より

組織体制	配備の区分及び 仙工学校配備体制	配備の基準
	情報連絡体制の強化	(1) 市内で震度4の地震が発生したとき (2) 気象注意報、警報が発表され、市内で災害発生のおそれがあるとき (3) その他危機管理監が必要と認めるとき
災害警戒本部体制	<b>警戒配備</b> 校長、副校長 教頭、事務室長	(1) 大雨、洪水、暴風、大雪等により、市内に災害が発生し、災害の警戒及び応急対策を組織的に実施する必要があるとき  (2) その他危機管理監が必要と認めるとき
災害対策本部体制	<b>非常1号配備</b> 【災害対応人員参集】 3名程度(少なくとも管理職1名を含む)	(1) 市内で震度5弱の地震が発生したとき (2) 市内に気象特別警報(大雨、暴風、高潮、波浪、大雪、暴風雪)が発表されたとき (別表2)参照 ※大雨時に初動で避難所を開設しない学校も参集 (3) 大雨、洪水、暴風、大雪等により、市内に災害が発生し、かつ、拡大するおそれがあるとき (4) 市内で大規模な火災、爆発その他重大な災害が発生したとき (5) その他市長が必要と認めたとき
	<b>非常2号配備</b> 校長、副校長、教頭 非常配備要員 各部長 各科長 各学年主任 (概ね1/3の教職員)	(1) 市内で震度5強の地震が発生したとき  (2) 大雨、洪水、暴風、大雪等により、災害が本市の区域に広範囲で発生し、更に拡大するおそれがあるとき (3) その他市長が必要と認めたとき
	<b>非常3号配備</b> 全教職員	(1) 市内で震度6弱以上の地震が発生したとき (2) 市内の全域に大規模な災害が発生したとき又は全域に拡大することが予想されるとき (3) その他市長が必要と認めたとき

非常配備要員については、P39頁掲載

- 注) 1 警戒配備、非常配備に管理職以外の教員が従事し、時間外勤務が生じた場合は、勤務の振替により対応すること。(教員以外の事務職員、技師等については、超過勤務手当の対象となる。)
- 2 警戒配備、非常配備に管理職以外の教員が従事した際の特殊勤務手当の支給要件は、勤務時間内・外を問わず、待機等のみでなく実働を伴う業務に従事した場合となる。例えば「災害に伴う施設・設備等の安全点検」「災害からの復旧作業」「避難所開設に伴う避難所業務」などが想定される。なお、避難所業務においては、実際に避難所が開設されたことが要件であるため、開設準備発令の段階では特殊勤務手当の支給対象にはならない。※災害時の手当支給等に関する問合せ先：人事課給与厚生係
- 3 該当教職員は家族等の安全を確保し、自らの安全にも留意後、定められた計画に基づき、直ちに学校へ参集する。
- 4 円滑かつ的確に情報を伝達するために、学校内における連絡体制の構築や、災害時に連絡すべき地域団体や機関のリストアップなど、情報連絡体制の整備を図っておく。

**参考**

【市教委配備】 警戒配備：総務課長・総務係長・教育指導課長・管理係長・生涯学習課長・企画係長 等  
 非常1号配備：教育局職員の概ね1／3の職員  
 非常2号配備：教育局職員の概ね2／3の職員  
 非常3号配備：全職員

(別表1) 津波の場合の参集対象校

配備の区分	配備の基準	参集対象校
警戒配備	津波注意報	宮城野区：岡田小，高砂中 若林区：六郷中，七郷中
非常1号配備	津波警報	宮城野区：岡田小，福室小，中野栄小，鶴巻小，高砂中，中野中 若林区：六郷小，七郷小，沖野小，蒲町小，沖野東小，荒井小，六郷中，七郷中，蒲町中，沖野中 太白区：四郎丸小，袋原小，東四郎丸小，郡山小，袋原中
		<b>本校は該当しません</b>
非常2号配備	大津波警報	宮城野区：福室小，中野栄小，鶴巻小，中野中 若林区：六郷小，七郷小，沖野小，蒲町小，沖野東小，荒井小，六郷中，七郷中，蒲町中，沖野中 太白区：四郎丸小，袋原小，東四郎丸小，郡山小，袋原中 ※岡田小，高砂中においては，教職員は当該校には参集しないが，あらかじめ決めている近隣校へ参集及び待機し，当該校児童生徒の安否等に係る情報収集等に当たる。なお，近隣校に関する情報（校名，電話番号，連絡可能時間等）については，事前に保護者に周知しておくとともに，施設管理の観点から，安全が確保できる状況になった段階で当該校の校舎等の点検を行うこと。参集要員は対応に必要な人員のみとする。

※ 地震と同時でない津波注意報・津波警報・大津波警報(例：チリ地震)の場合も同様である。

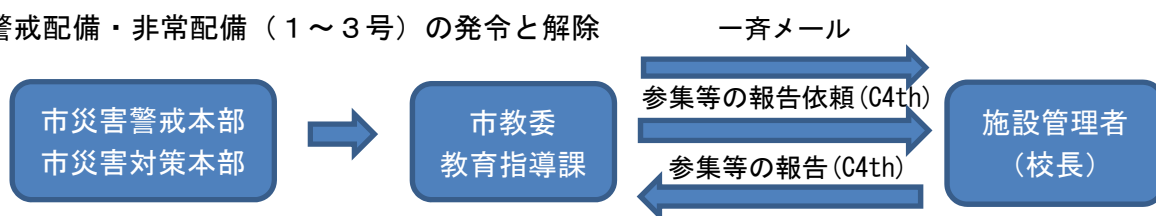
(別表2) 台風・大雨等の場合の参集対象校

配備の区分	配備の基準	参集対象校
警戒配備	土砂災害警戒情報	仙台市東部に発表：仙台市東部の学校 (資料3参照) 仙台市西部に発表：仙台市西部の学校 (資料3参照) ※折立中は東部，西部どちらにも該当する。 (参集しない学校：下記①②の学校には避難所担当課も参集しない。) ①土砂災害警戒区域内に校舎及び体育館がある学校 ・八木山南小，湯元小，人来田中，八乙女中 ②初動で開設しない避難所となっている学校 (資料2参照) ⇒ <b>本校が該当します</b>
非常1号配備	気象特別警報	上記①以外の学校 ※上記①の学校においては，教職員は当該校には参集しないが，あらかじめ決めている近隣校へ参集及び待機し，当該校児童生徒の安否等に係る情報収集等に当たる。なお，近隣校に関する情報（校名，電話番号，連絡可能時間等）については，事前に保護者に周知しておくとともに，施設管理の観点から，安全が確保できる状況になった段階で当該校の校舎等の点検を行うこと。参集要員は対応に必要な人員のみとする。

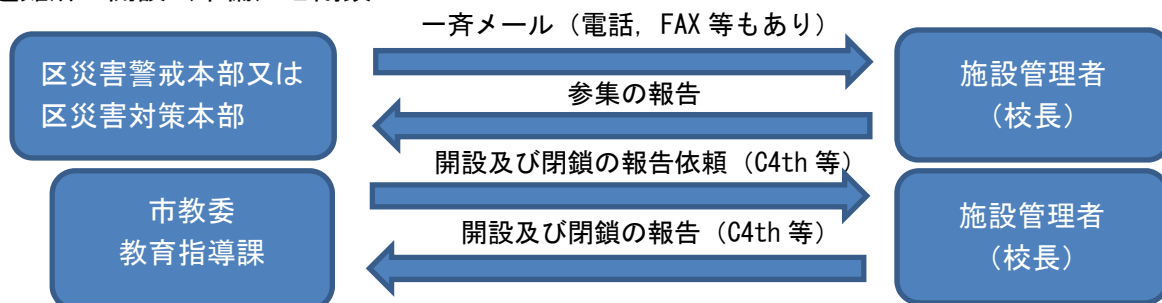
**非常時の連絡系統**



○警戒配備・非常配備（1～3号）の発令と解除



○避難所の開設（準備）と閉鎖



**非常配備計画における留意事項**

※非常配備におけるチェック項目として活用すること

○警戒配備・非常配備（1号～3号）の発令と解除について

- 警戒配備・非常配備の発令と解除については、教育指導課から校長宛に一斉メールで連絡する。なお、発令時は、原則、自動参集となることから、メールの到着の有無に関わらず、参集する。
- 警戒配備による参集状況等について、教育指導課からC4thで報告依頼があるので、回答する。
- 参集した職員は、学校の被害状況確認、復旧業務、(児童生徒の安否確認) 避難所業務に従事するが、その後の勤務(授業)への対応にも配慮し、非常配備要員のほかに、あらかじめ参集者を決め、連続した勤務とならないようにローテーションを組んでおく。
- 参集した職員は、学校の被害状況の確認、復旧業務、(児童生徒の安否確認) 避難所業務等に従事するが、避難所閉鎖後に待機程度が想定される場合、校長の判断で非常配備要員を縮小することができる。また、警戒配備・非常配備の解除については、市教委からの指示を受けて行う。なお、前述の場合以外の規模縮小に関しては、市教委と災害警戒本部・災害対策本部との協議の上、行うものとする。

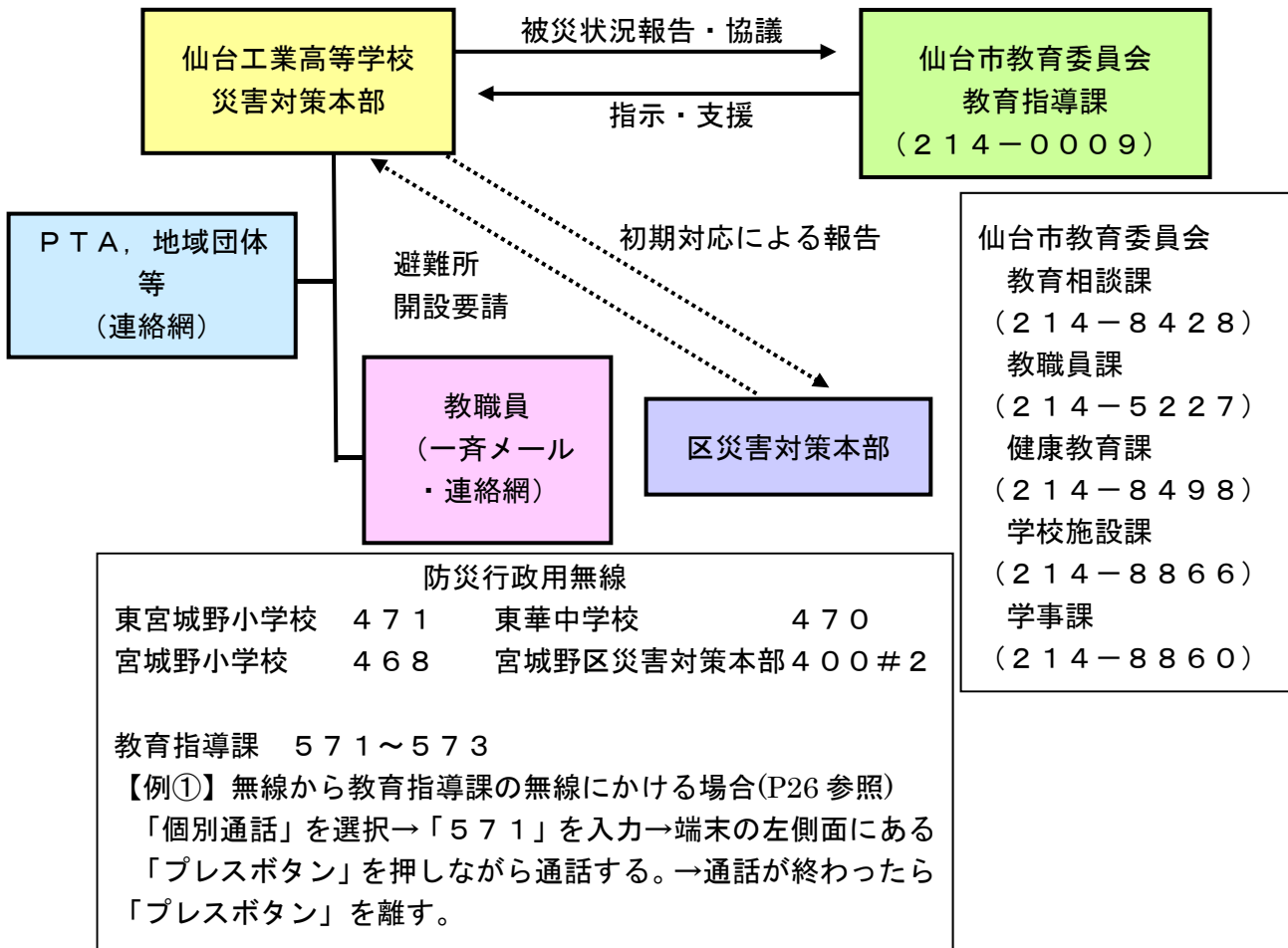
○避難所開設（準備）と閉鎖について

- 避難所開設（準備）と閉鎖については、区災害対策（警戒）本部から校長宛に指示がある。
- 避難所開設（準備）がなくても、警戒配備・非常配備が指示されている場合は、学校での待機等の対応が必要である。(市教委の指示がある場合を除く。)
- 避難所開設準備の指示があった場合、校長は参集後、速やかに区災害警戒本部に報告をする。
- 避難所開設及び閉鎖の際、教育指導課からC4th等で報告依頼があるので、回答する。
- 避難所開設初動時には、様々な諸準備のために相当数の人員が必要となるため、警戒(非常)配備要員のほかに、あらかじめ参集者を決め、連続した勤務とならないようにローテーションを組んでおく。
- 区災害対策本部から避難所の開設要請がない状況下、災害により自主避難者が発生した場合等には、応急的な受け入れを行い、区災害対策本部に連絡する。
- 避難所開設に当たっては、事前に校長が施設の安全確認(避難所等安全確認チェックシート)を行う。異常がある場合、区災害対策本部に連絡する。
- 避難者が全員帰宅後、区災害対策本部からの連絡があるまで避難所を閉鎖しない。
- 上記の場合で待機程度が想定される場合、避難所運営委員会(避難所担当課等)と協議の上、警戒・非常配備要員を縮小することができる。

(6) 情報連絡体制



## ○電話等の通信手段が使えるとき



### I. 全日制課程

1. (通常時) 前日に翌日の状況等が予測できる場合→前日判断
  - ①教頭, 事務長, 防災主任・総務部長, 教務部長等で情報収集
  - ②校長, 教頭, 事務室長, 防災主任・総務部長, 教務部長, 生徒指導部長で打合せを行い, 対応を決定
  - ③ **16時55分**までに臨時職員会議を行い, 対応について周知徹底をはかる。
  - ④生徒, 保護者への連絡は, 「**連絡メールシステム(要返信)**」を利用して配信する。
  - ⑤メール返信の無い場合は, 担任が保護者等に連絡をする。
  - ⑥教頭, 事務室長で関係諸機関へ連絡, 報告を行う。
2. 前日に翌日の状況等が予測できない場合→当日判断(早朝)
  - ①校長, 教頭, 事務室長で電話等により連絡を行い協議決定する。
  - ② **6時30分**までに「**連絡メールシステム(要返信)**」で, 教職員, 保護者, 生徒に連絡する。連絡がない場合は, 授業を行う。
  - ③保護者等からメール返信が無い場合は, 担任が保護者等に連絡をする。
  - ④教頭, 事務室長で関係諸機関へ連絡, 報告を行う。
3. 当日, 状況が変化した場合(交通機関の遅延, 不通などを含む)
  - 1) 登校時

- ①教頭，事務室長，防災主任・総務部長，教務部長等で情報収集。
- ②校長，教頭，事務室長，総務部長，教務部長，生徒指導部長で打合せを行い，対応を決定
- ③8時25分の職員打合せで，対応について周知徹底をはかる。
- ④生徒，保護者への連絡は，「連絡メールシステム（要返信）」を利用して配信する。
- ⑤保護者等からメール返信の無い場合は，担任が保護者等に連絡をする。
- ⑥教頭，事務室長で関係諸機関へ連絡，報告を行う。

## 2) 下校時

- ①教頭，事務室長，防災主任・総務部長，教務部長等で情報収集
- ②校長，教頭，事務室長，防災主任・総務部長，教務部長，生徒指導部長で打合せを行い，対応を決定
- ③臨時の職員打合せを行い，対応について周知徹底をはかる。
- ④生徒，保護者への連絡は，「連絡メールシステム」を利用して配信する。
- ⑤保護者等からメール返信の無い場合は，担任が保護者等に連絡をする。
- ⑥教頭，事務室長で関係諸機関へ連絡，報告を行う。

## II. 定時制課程

I. 1. ～ I. 3. に準拠する。ただし、教頭を副校長，「1. ③の16時55分まで」は21時30分，「2. ②の6時30分まで」と「3. ③8時25分の」は，それぞれ13時15分と読み替える。

## <学校周辺の施設>

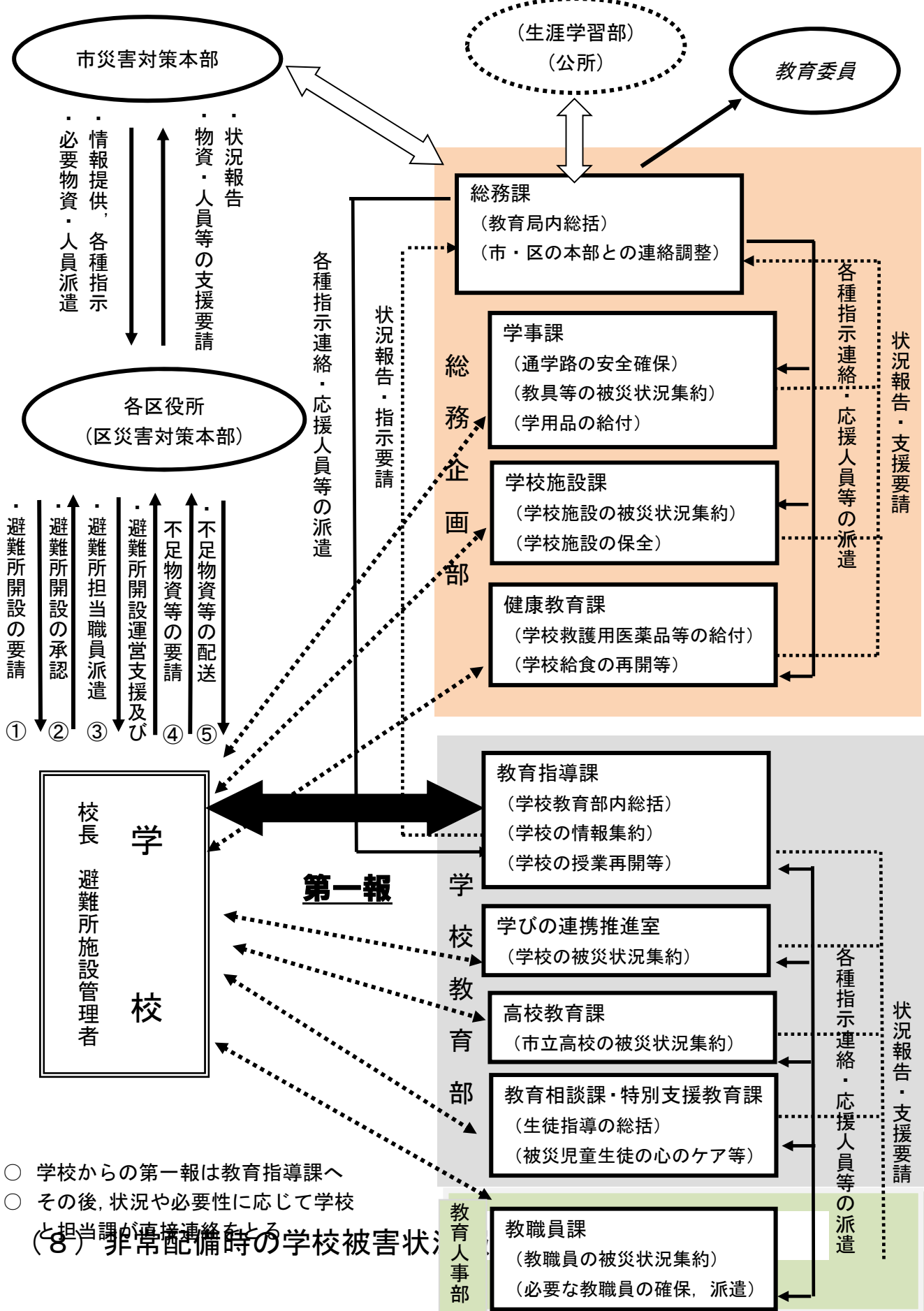
### ○学校関係

施設名	住所（電話番号）	備考
宮城野小学校	東宮城野2-1（231-6948）	
東宮城野小学校	東宮城野5-1（239-5481）	
東華中学校	宮城野2-14-27（298-8525）	

### ○市民センターやコミュニティセンター等の施設

施設名	住所（電話番号）	備考
宮城野コミュニティセンター	萩野町二丁目13-10（239-5967）	

# (7) 教育委員会（学校・事務局）防災対応フロー



## 被害状況報告

受信者	仙台市教育局 教育指導課長 宛
送信日時	月 日 時 分
送信者	学校番号( ) 学校名( ) 学校) 職名( ) 氏名( )
被害報告	<p><b>被害状況(どちらかに☑)</b></p> <p><input type="checkbox"/> 異常なし</p> <p><input type="checkbox"/> 異常あり</p> <p>※異常ありの場合は、確認できる範囲内で簡潔に記入願います。 (例) 窓ガラス破損 3枚</p> <p><b>その他</b></p>

## (9) 防災用 I P 無線から教育指導課への連絡方法

### ① 学校の無線から教育委員会の無線へのかけ方

(ア) 端末の画面の下にある「左右の矢印ボタン (◀ ▶)」を押して、「個別通話」を選択する。

(イ) 呼出番号入力

~を押して、相手局の呼出番号 (3桁) を入力する。

※呼出し番号：教育指導課 1 (571), 教育指導課 2 (572), 教育指導課 3 (573),  
教職員課 (570), 学校施設課 (569), 総務課 (568)

(ウ) 端末の左側面にある「プレスボタン」を押しながら通話する。

通話が終わったら「プレスボタン」を離す。

※ 操作方法は、危機管理局より配布されている「仙台市防災用 I P 無線簡易取扱説明書」にも記載されている。

### ② 教育委員会の緊急連絡先の無線番号 (抜粋) と報告内容

災害発生時の被害状況等は教育指導課に所定の F A X 送信票 (P. 25) で報告することとしているが、停電等で F A X 送信ができない場合は学校の防災用 I P 無線から教育指導課の防災用 I P 無線を利用して報告する。連絡の混雑緩和のため、下記の該当の無線番号に報告する。

(ア) 幼稚園, 小学校 (学校番号 1~63) . . . . . 571

(イ) 小学校 (学校番号 64~128) . . . . . 572

(ウ) 中学校, 高校, 特別支援学校, 中等教育学校 . . . 573

報告内容

学校番号    学校名    報告者職・氏名

被害状況《なし・あり (            )》

※ 被害ありの場合は、児童生徒・教職員、施設設備等の簡潔に報告する。

(参考) 総務課 568    学校施設課 569    教職員課 570

# 7 避難所開設・運営の支援マニュアル

## (1) 目的

「仙台市避難所運営マニュアル」を基本として、各地域・学校では、地域・行政・学校の三者の事前協議により「地域版避難所運営マニュアル（地震編及び大雨編）」を作成することとされている。また、令和2年6月より新型コロナウイルス対策追加事項を当該マニュアルに追加することとされている。

本マニュアルは、避難所開設初期対応並びに運営支援における学校としての体制をあらかじめ定めるものである。

## (2) 日常における指定避難所に必要な事項の確認

### ① 指定避難所の開設種別等

指定避難所は、切迫した災害の危険から逃れるための緊急的な避難施設であるとともに、被災により生活の場を失った住民が一定期間滞在して避難生活をするための施設。仙台市では市立小中高等学校等が指定されている。

主な災害種別の指定避難所開設・非常配備

		地震	津波	大雨（洪水・土砂災害）
学区内における災害のおそれ		（本マニュアルに準ずる）		・学校近隣に洪水浸水想定区域がある ・学校近隣に土砂災害のおそれのある区域はない
指定避難所の開設		開設する	開設しない	初動で開設しない
非常配備	警戒配備			
	非常1号配備	市内で震度5弱の地震が発生したとき、学校に参集		市内に大雨特別警報が発表されたとき、学校に参集
	非常2号配備	市内で震度5強の地震が発生したとき、学校に参集		
	非常3号配備	市内で震度6弱以上の地震が発生したとき、学校に参集		

非常配備の詳細は教職員非常配備計画を参照（P19）

② 指定避難所としての開放区域（校舎・校庭等）の利用計画

指定避難所として開放することを要請された場合に備え、あらかじめ校舎等の開放区域を次のとおり定める。

No.	利用目的	利用予定場所
1	避難場所	体育館・校庭テント
2	障害者等避難場所	合宿所和室
3	妊婦・乳幼児の避難場所	合宿所女子合宿室
4	管理運営所（連絡所）	事務室・合宿所ミーティングルーム・食堂
5	応急救護所	生徒会館又は器具庫2
6	インフルエンザノウフル等感染者避難場所	体育館2F 武道場
7	情報機器（TV等）設置場所	体育館入口ホール
8	情報掲示場所	体育館入口ホール
9	ゴミ集積場所	現ゴミ集積所脇・北側駐車場
10	仮設トイレ設置場所	生徒会館西側
11	障害者・介護者用トイレ	体育館1Fトイレ
12	救援物資集積場所	合宿所玄関・工耀会館
13	救援物資配布場所	体育館玄関
14	臨時遺体安置所	トレーニング棟
15	仮設電話設置場所	体育館1Fホール・廊下
16	風呂	校庭北側
17	更衣室	体育館2F男子・女子更衣室
18	洗濯場	普通教室棟南側
19	物干し場	体育館南側
20	ペット置き場	校庭西側
21	介護室	合宿所和室
22	喫煙場所	なし
23	相談室	合宿所教員室B
24	調理室	家庭科棟調理実習室
25	給水場	普通教室棟南側水道・体育館水道・普通教室棟中庭（給水車）
26	緊急車両用駐車場	普通教室棟中庭



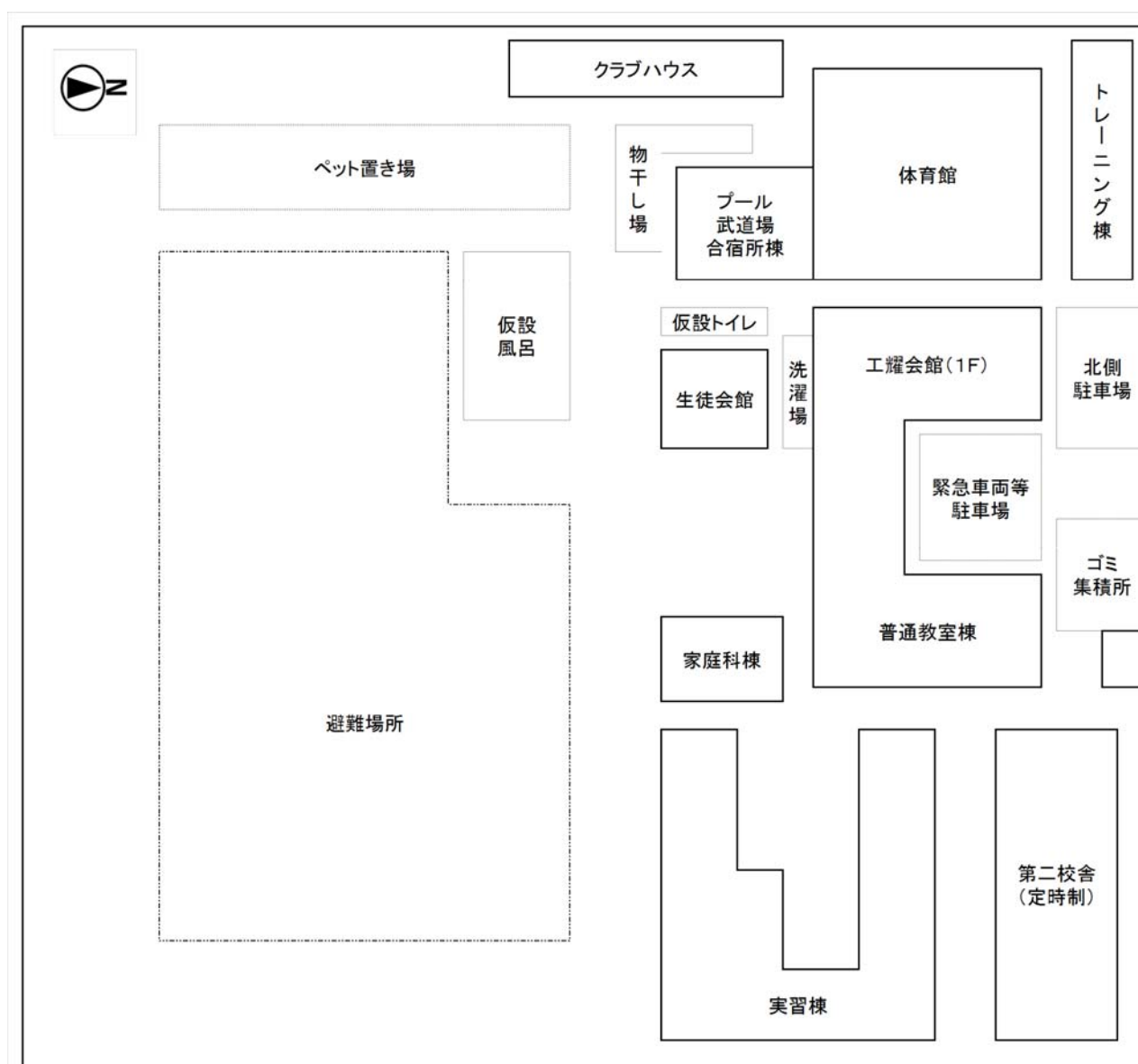
## ② 指定緊急避難場所としての利用計画

指定緊急避難場所は、災害が発生し、又は発生するおそれがある場合にその切迫した危険から逃れるための避難場所として、洪水や津波など異常な現象の種類（①洪水、②崖崩れ、土石流及び地滑り、③高潮、④地震、⑤津波、⑥大規模な火事等）ごとに安全性等の一定の基準を満たす施設又は場所を市町村長が指定しており、仙台市では市立学校等が指定されている。

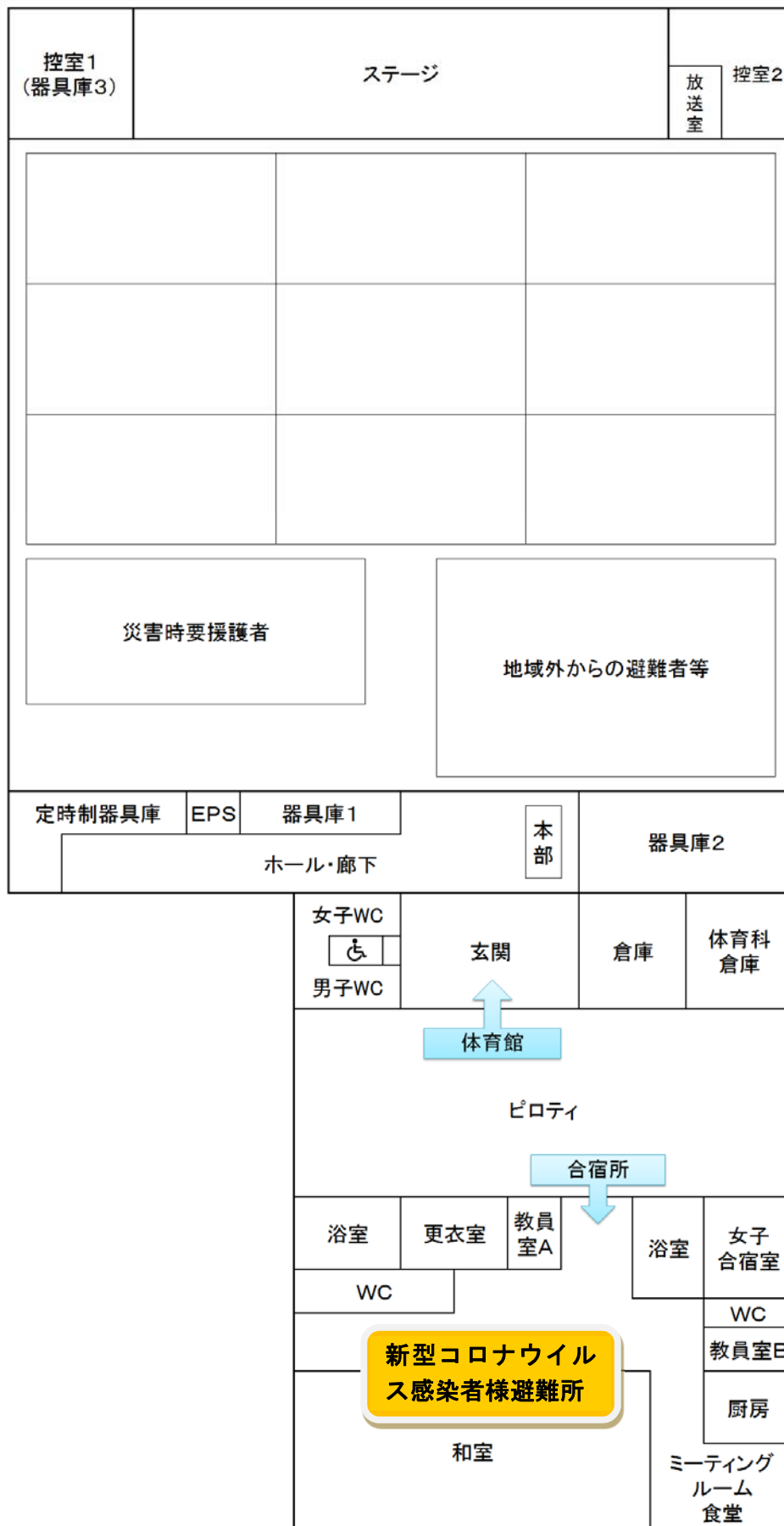
指定緊急避難場所の運営は、指定避難所の運営に準じる。但し、洪水・津波被害の恐れのある地域は、避難場所として2・3階以上の教室等を利用のこと

自校において、どのような災害が起きたときの指定緊急避難場所になるのかを必ず確認しておくこと。（仙台市地域防災計画 共通附属資料 6-6 に記載）

## ③ 利用配置図



体育館配置計画



④ 校門・体育館・校舎等の鍵の保管

夜間や休日の発災において、緊急に体育館を開放する必要がある場合の対応として、学校の鍵の保管に関し、次のとおりとする。

No.	保管者	住所・電話番号	鍵の種類
1	副校長		第二校舎
2	教 頭		教室棟 体育館
3	主 幹		実習棟入口 事務室
4	防災主任		教室棟 実習棟

⑤ 市役所・区役所指定動員の確認

夜間や休日などに、市内で震度6弱以上の地震が発生したとき又は土砂災害警戒情報が発表された時は、避難所開設の支援を行う目的で学校の近くに住む市役所・区役所の職員が動員される。

指定動員 氏名	連絡先 電話

⑥ 指定避難所担当課の確認

津波注意報（警報）、土砂災害警戒情報などが発表された場合又は市が避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告等を発令した場合などに、あらかじめ決められた指定避難所担当課職員が各学校に派遣される。

指定避難所担当課連絡先	宮城野区 税務会計課 022-291-2111 内線6211

⑦ 指定避難所の開設・対応に係る区役所担当部署の確認

仙台市地域防災計画により、学校に対し指定避難所としての開設要請を行い、また開設後の対応を行うのは宮城野区役所災害対策本部となる。（防災用行政無線 420#2）  
また、実際の避難所管理運営業務を行うのは、区役所保健福祉センターとなる。

指定避難所管理運営連絡先	宮城野区役所保健福祉センター 管理課総務係 電話022-291-2111 防災用行政無線 420#1

※「⑤市役所・区役所指定動員の確認」「⑥指定避難所担当課の確認」「⑦指定避難所の開設・対応に係る区役所担当部署の確認」は、仙台市地域防災計画等の改訂に伴って変更される可能性がある。

⑧ その他、指定避難所となった場合に必要な物資に係る情報についての把握

学校における災害救援物資の備蓄状況及び近接する宮城野コミュニティ防災センターの防災資機材等の状況については、次のとおりである。\*目安量は、仙台市の備蓄基準量。

備蓄物資一覧【指定避難場所】				2022/5/10		
No	保管場所	品名	数量	内訳	備考	
①	工羅会館談話コーナー	ホワイトボード	1脚			
②	校舎棟2階職員室	液晶テレビ(情報収集用)	1台			
③	校舎棟2階職員室	室内アンテナ	1個			
④	校舎棟2階職員室	電源コード(10m)	4本		段ボール箱に収納	
⑤	校舎棟2階職員室	ネックレス型LEDライト	5個			
⑥	校舎棟1階男子更衣室	カセットガス発電機(エネポ)	3台		一酸化炭素中毒の恐れあり。必ず屋外で運転	
⑦	校舎棟1階男子更衣室	カセットガスボンベ(発電機用)	2箱	96本(48本×2箱)	訓練での使用不可	
⑧	校舎棟1階男子更衣室	LED投光器	1台		5台のうちの1台	
⑨	校舎棟1階男子更衣室	電源ドラム	1台		5台のうちの1台	
⑩	実習棟2階M科製図実習室	大型扇風機	1台		4台のうちの1台	
⑪	実習棟3階A科施工実習室	大型扇風機	3台		4台のうちの3台	
⑫	生徒会館エントランス	災害用簡易組立トイレ・和式	2基			
⑬	生徒会館エントランス	災害用簡易組立トイレ・洋式	3基			
⑭	体育館棟備蓄倉庫	プラスチック段ボールパーティション	10箱	80枚(8枚×10箱)		
⑮	体育館棟備蓄倉庫	簡易ベッド	2台		体調不良者の療養用	
⑯	体育館棟備蓄倉庫	受付用デスクパーティション	1箱	4枚入り		
⑰	体育館棟備蓄倉庫	避難所運営用品	避難所運営マニュアル	1式	コンテナボックスに収納	
			様式集	1式		
			腕章	1式		
			災害時多言語シート	1式		
			災害時多言語指差しボード	1式		
			避難所運営要員用ベスト	10着		
⑱	体育館棟備蓄倉庫	感染症対策関係	アルコール手指消毒剤	1本	段ボール箱に収納	
			塩素系漂白剤(ハイター)	1本		
			使い捨て手袋	2包		200枚(100枚×2包)
			マスク	2箱		120枚(60枚×2箱)
			ペーパータオル	1個		200枚入り
			チラシ「身のまわりを清潔にしましょう」	1枚		
			チラシ「マスクの配布方法」	1枚		
⑲	体育館棟備蓄倉庫	クラッカー	3箱	210食(70食×3箱)	2025.8 賞味期限	
⑳	体育館棟備蓄倉庫	ようかん	4箱	200食(100本×4箱÷2本/食) ※2本で1食として換算	2025.6 賞味期限	
㉑	体育館棟備蓄倉庫	アルファ米	24箱	1200食(50食×24箱)	2025.5 賞味期限	
㉒	体育館棟備蓄倉庫	アルファ粥⑳	2箱	100袋(42g×50袋×2箱)	2027.6 賞味期限	
㉓	体育館棟備蓄倉庫	アルファ米㉑	5箱	250袋(100g×50袋×5箱)	2027.4 賞味期限	
㉔	体育館棟備蓄倉庫	調理不要食(味付きご飯・50食入り)㉒	4箱	200食(50食×4箱)	2026.11 賞味期限	
㉕	体育館棟備蓄倉庫	調理不要食(味付きご飯・50食入り)㉓	4箱	200食(50食×4箱)	2027.12 賞味期限	
㉖	体育館棟備蓄倉庫	調理不要食(味付きご飯・50食入り)㉔	5箱	250食(50食×5箱)	2028.12 賞味期限	
㉗	体育館棟備蓄倉庫	調理不要食(味付きご飯・20食入り)㉒	2箱	40食(20食×2箱)	2026.11 賞味期限	
㉘	体育館棟備蓄倉庫	調理不要食(味付きご飯・20食入り)㉓	2箱	40食(20食×2箱)	2027.12 賞味期限	
㉙	体育館棟備蓄倉庫	飲料水(500mlペットボトル)	90箱	1800本(20本×90箱)	2026.6 賞味期限	
㉚	体育館棟備蓄倉庫	毛布	400枚	100枚(10枚×1箱、5枚×18箱)		
㉛	体育館棟備蓄倉庫	毛布		300枚(10枚×30箱)		
㉜	体育館棟備蓄倉庫	アルミマット	1箱	20枚入り		
㉝	体育館棟備蓄倉庫	ワンタッチ式パーティション	4張			
㉞	体育館棟備蓄倉庫	ブルーシート	40枚			
㉟	体育館棟備蓄倉庫	使い捨てカイロ	3箱	600個(240個×2箱+120個×1箱)		
㊱	体育館棟備蓄倉庫	テント式プライベートルーム	2基		着替えや授乳時のために使用可	
㊲	体育館棟備蓄倉庫	LED投光器	4台		5台のうちの4台	
㊳	体育館棟備蓄倉庫	電源ドラム	4台		5台のうちの4台	
㊴	体育館棟備蓄倉庫	ハンズフリーメガホン	2台			
㊵	体育館棟備蓄倉庫	災害時特設公衆電話	2台			
㊶	体育館棟備蓄倉庫	軍手	36双			
㊷	体育館棟備蓄倉庫	災害用携帯型簡易トイレ	3箱	300枚(100枚×3箱)		
㊸	体育館棟備蓄倉庫	救急医療セット(ジュラルミンケース)	1式			
㊹	体育館棟備蓄倉庫	アルコール手指消毒剤	1箱	10本入り		
㊺	体育館棟備蓄倉庫	ニトリルゴム手袋	1箱	M・Lサイズ		
㊻	体育館棟備蓄倉庫	避難者受付用	フェイスシールド	30個	(フレーム+シールド)	コンテナボックスに収納
			フェイスシールド	120枚	(予備シールド)	
			アイソレーションガウン	30着		
			簡易レインコート	24着		
			非接触型体温計	2台		
			作業用手袋	30双		
			クリップペンシル	1箱	1,000本入り	
㊼	体育館棟備蓄倉庫	消毒・衛生用品	塩素系漂白剤	2本		コンテナボックスに収納
			ハンドソープ	6本		
				2包	1包100枚入り	
			ペーパータオル	6包	1包200枚入り	
			ゴミ袋(45L)	10冊	100枚(10枚×10冊)	
			レジ袋	6冊	600枚(100枚×6冊)	
			除菌アルコールシート	50個	1個20枚入り	
	3袋	30枚(10枚×3袋)				

## 宮城野コミュニティセンターの備蓄物資

品名	数量	確認数量	品名	数量	確認数量
消火器	10本	10本	土のう袋	200枚	200枚
消火用バケツ	20個	20個	ナタ	5丁	5丁
給水用ポリタンク(20ℓ)	5個	5個	ビニールひも	5個	5個
給水用ポリ袋(6ℓ)	100枚	100枚	オイル(4ℓ缶)	2缶	2缶
ラジオ付きライト	5個	5個	金テコ	3本	3本
カラーコーン	10個	10個	サイレン付メガホン	3個	3個
コーンバー	5個	5個	担架	3式	3式
トラロープ	5個	5個	組立水槽(1m <sup>3</sup> )	2式	2式
救急医療セット	3式	3式	炊飯装置	2式	2式
毛布	200枚	200枚	オイルパン	2個	2個
保安帽	50個	50個	発電機	3式	3式
鉄杭(パイプ)	40本	40本	テント	2式	2式
鉄杭(丸棒)	40本	40本	金属はしご	2個	2個
ヘッドキャップ	5個	5個	リヤカー	1式	1式
10ポンドハンマー	5丁	5丁			
スコップ	10丁	10丁			
ツルハシ	5丁	5丁			
防水シート	100枚	100枚			

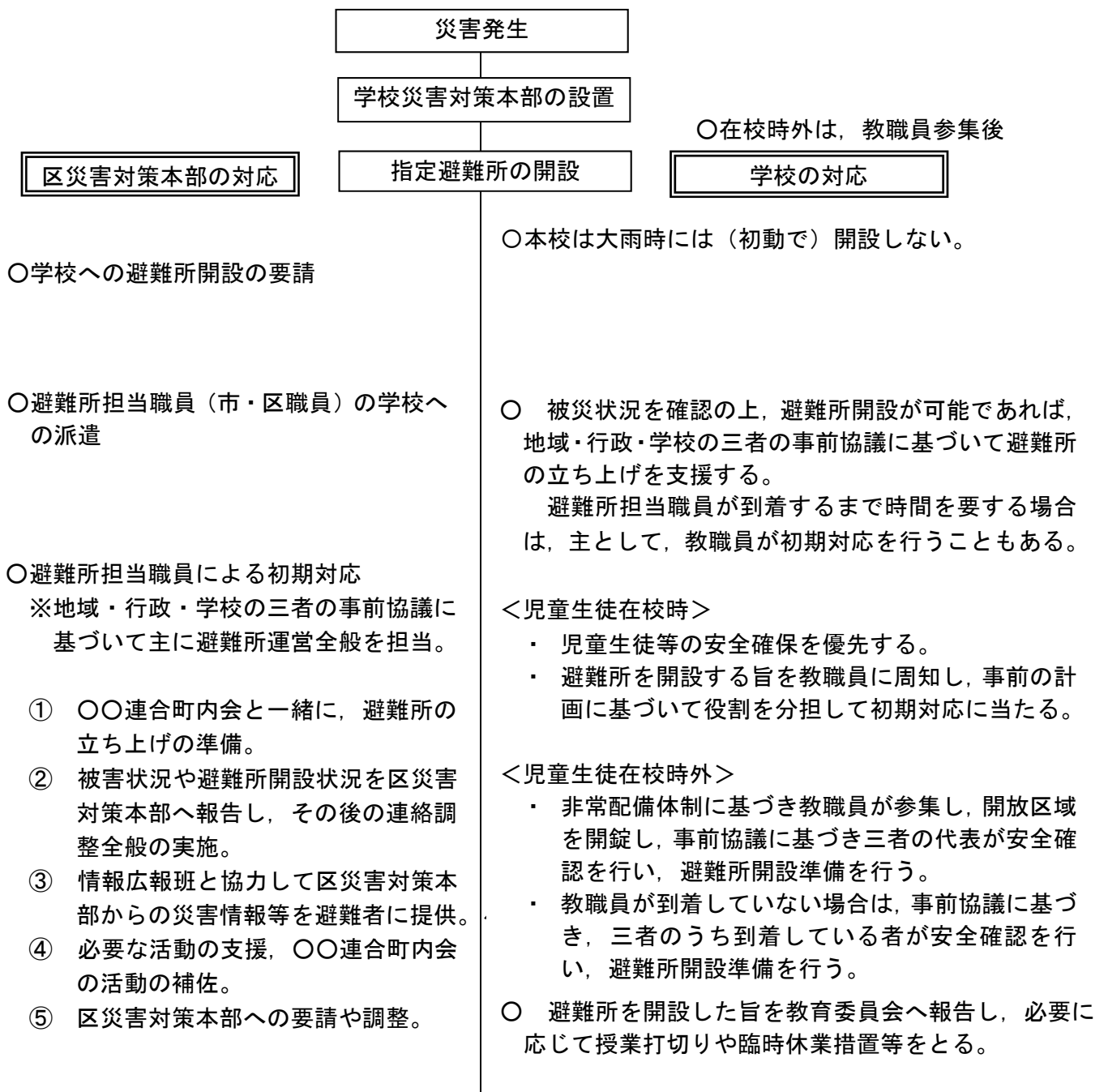
### (3) 指定避難所開設・運営の協力・支援

校長は、〇宮城野区災害対策本部より指定避難所開設を要請された場合に備え、「避難所等安全確認チェックシート（資料4）」に基づき、避難所として使用される施設の安全確認を行い、避難所の開設体制を整える。

避難者が既に集合している状態で、区災害対策本部から避難所の開設要請がなく、市の避難所担当職員が到着していない場合は、校長の判断により、あらかじめ定める避難所運営の支援体制等に基づき応急的な受け入れ措置を行うとともに、避難状況等について区災害対策本部に連絡する。

校長は、指定避難所として開放した場合には、速やかに仙台市教育委員会に報告のうえ、学校の臨時休業等についても報告・協議する。

#### ① 学校災害対策本部における支援マニュアル



避難所の中・長期化への対応

○避難所担当職員の役割

宮城野地区町内会や避難者，学校と連携しながら避難所運営の全般に携わる。  
特に，区災害対策本部との情報伝達により，避難所内の課題解決に向けた要請や調整を行う。

○区災害対策本部から避難所閉鎖の要請  
※区災害対策本部から連絡を受けて閉鎖となる。

○教職員も役割を分担し，可能な範囲内において避難所運営を支援する。

役割	担当者名
総務班	副校長，教頭，事務
名簿班	総務部
食料物資班	生徒指導部
衛生班	保健厚生部
情報広報班	情報管理部
救護班	教務部

- 避難所を支援するための児童生徒等によるボランティア活動の組織・運営を行う。
- 避難所としての学校施設使用状況に関して教育委員会へ適時報告を行う。
- 臨時休業，学校教育再開に関して教育委員会と連絡及び協議を行う。
- 学校教育活動の再開の決定をする。

指定避難所の閉鎖

○避難者の居住先を確保する。

- 指定避難所閉鎖による校内施設等の通常状態への回復
- 教育委員会への避難所閉鎖の連絡

## ② 避難所開設・閉鎖に係る情報伝達の流れ

### 1. 避難所開設

#### (1) 風水害の場合

土砂災害警戒情報や洪水の危険性が高まった際に，学校長の携帯メールなどに区災害対策本部から避難所開設準備に係る連絡が届く。

#### (2) 津波注意報・津波警報・大津波警報発表時の場合

津波注意報等発表時は，次の学校の教職員は配備計画（P19）に従って，避難所開設準備を行う。

##### ①津波注意報発表時

- ・宮城野区：岡田小，高砂中
- ・若林区：六郷中，七郷中

##### ②津波警報発表時

- ・宮城野区：岡田小，福室小，中野栄小，鶴巻小，高砂中，中野中
- ・若林区：六郷小，七郷小，沖野小，蒲町小，沖野東小，荒井小，六郷中，七郷中，蒲町中，沖野中
- ・太白区：四郎丸小，袋原小，東四郎丸小，郡山小，袋原中

### ③大津波警報発表時

- ・宮城野区：福室小，中野栄小，鶴巻小，中野中
  - ・若林区：六郷小，七郷小，沖野小，蒲町小，沖野東小，荒井小，六郷中，七郷中，蒲町中，沖野中
  - ・太白区：四郎丸小，袋原小，東四郎丸小，郡山小，袋原中
- ※ 岡田小，高砂中は参集しない。

### (3) 地震発生の場合

市内で震度6弱以上の地震が発生した場合，市内の指定避難所になっている全学校は，施設管理者が施設の安全を確認した後，異常がなければ避難所開設を行う。

避難所開設後，建築専門家が安全確認の支援を行うため，避難所施設の点検に伺う。

### (4) その他

上記(1)～(3)以外にも，災害により避難者が発生した場合等には，区災害対策本部の判断により避難所開設を行う場合がある。

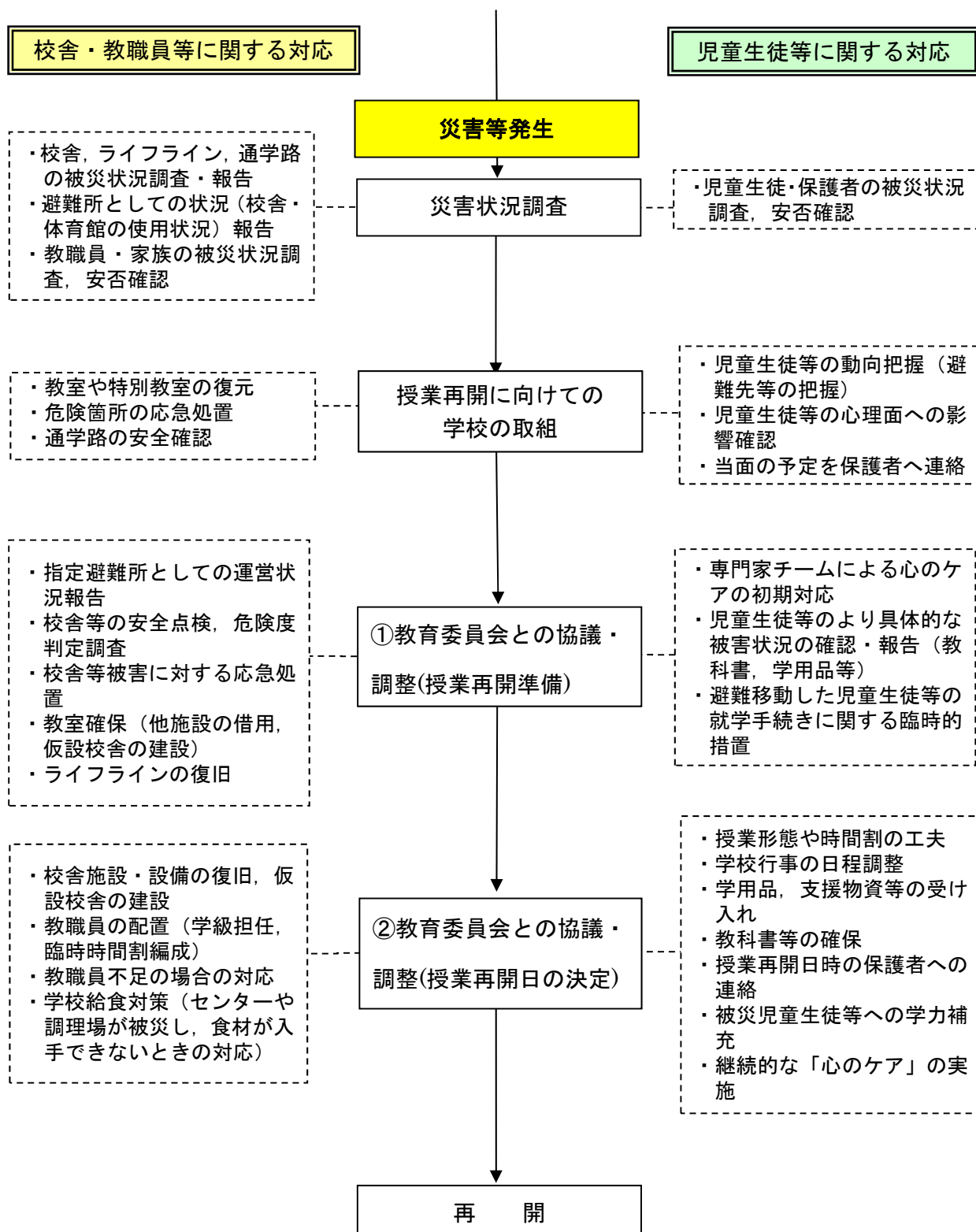
## 2. 避難所の縮小・閉鎖

避難所の縮小・閉鎖は，気象警報の解除，地域の安全の確保などを総合的に検討した上で，区災害対策本部から各学校へ連絡が届く。

避難者が全員帰宅した後も，区災害対策本部から連絡があるまでは，避難所を閉鎖しない。



## (4) 授業再開に向けた対応マニュアル



## 8 その他

### (1) 避難訓練計画（地震，津波，大雨等）について

災害	訓練実施日時	実施方法（避難方法・避難場所等） ※文例
地震	5月24日(全) 6月16日(定)	・地震対応避難訓練として，全校一斉に指定場所に避難する。
火災	9月15日	・火災対応避難訓練として，全校一斉に指定場所に避難する。 ・教職員間で，火災が起きた際の情報伝達及び避難誘導の訓練又は研修を行う。

※ 詳細については，防災訓練実施計画（職員会議資料）参照

#### マニュアル使用にあたって

- (1) 全職員1部必携とし，早い段階に研修会等で読みあわせを行う。
- (2) 風水害等の災害については，このマニュアルに準じて対応する。
- (3) 火災については別途作成する消防計画に拠る。
- (4) マニュアルの内容については保護者や地域と情報を共有する。
- (5) 関係者（町内会長，PTA会長，SBL等）にも配付する。
- (6) 本マニュアルを学校ホームページに掲載し広く周知する。

\_\_\_\_年 \_\_\_\_月 \_\_\_\_日 \_\_\_\_\_名前\_\_\_\_\_

あてはまるものの数字に○をつけてください。

1. 熱 (37.5度以上) がある、または熱っぽい \_\_\_\_時 \_\_\_\_分の体温 \_\_\_\_度
2. 咳がでる
3. のどが痛い
4. 頭痛がする
5. 寒気がする
6. 全身がだるい
7. 関節痛・筋肉痛がある
8. そのほかに体調が悪いところや、病気やけががあれば、ご記入ください。

9. あてはまるものはない